

第3章 用途別の状況

1 コスト情報とストック情報

2 一般公共施設の配置状況

- (1) 分類別・一般公共施設一覧表
- (2) 地区別・一般公共施設配置状況

3 施設評価の方法

- (1) 評価項目と評価指標（5軸評価）
- (2) 施設総合評価のパターン分類

4 主な施設の状況

- (1) 市民文化系施設
- (2) 社会教育系施設
- (3) スポーツ・レクリエーション系施設
- (4) 産業系施設
- (5) 学校教育系施設
- (6) 子育て支援施設
- (7) 保健・福祉施設
- (8) 医療施設
- (9) 行政系施設
- (10) 公園
- (11) 供給処理施設
- (12) その他

第3章 用途別の状況

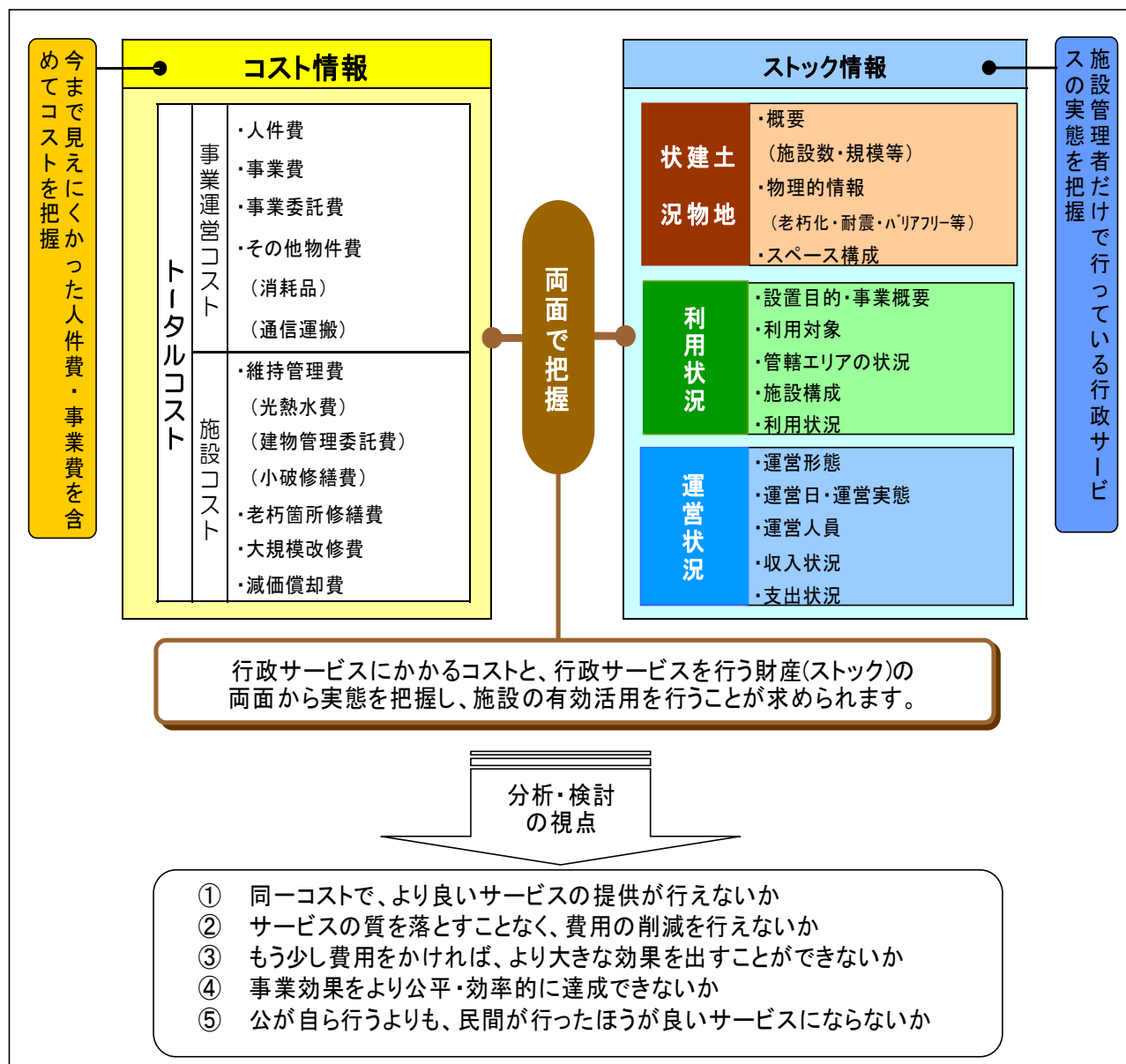
1 コスト情報とストック情報

行政コストを削減しながら公共サービスの質を向上させるためには、市の所有する公共施設を有効活用していくことが重要です。そのためには公共施設の現状を的確に把握し、コスト情報とストック情報の両面から調査・分析を行う必要があります。

本白書では、コスト情報から建物全体の維持管理にかかる費用と、人件費や事業費も含めた行政サービスにかかる費用を全体で把握します。費用の把握と平行して、ストック情報から建物の老朽化状況などの物理的な状況に加え、利用実態、運営実態も合わせて把握します。

コスト情報・ストック情報の両面から、施設及び実施サービスの実態を把握することで、事業の問題点や課題が改めて浮きぼりとなり、これらを基に事業の有効性の検証と共に、公共施設の有効活用の方向性を明らかにします。

図表 3-1 コスト情報とストック情報



2 一般公共施設の配置状況

(1) 分類別・一般公共施設一覧表

図表 3-2-1 分類別・一般公共施設一覧表(平成24年度基準)

No.	施設名	大分類	中分類	建築年	経過年数	床面積	耐震診断	維持管理費(千円/年)	掲載ページ	
1	豊川コミュニティセンター	市民文化系施設	集会施設	S56	31	2,532	A	34,182	29	
2	沼ノ端コミュニティセンター			H4	20	2,447	A	30,222		
3	住吉コミュニティセンター			S63	24	2,136	A	28,016		
4	のぞみコミュニティセンター			H15	9	2,260	A	29,241		
5	植苗ファミリーセンター			H9	15	1,257	A	19,420		
6	勇払公民館			S60	27	1,363	A	36,610		
7	女性センター			H6	18	1,390	A	2,766		
8	市民会館		文化施設	S43	44	8,907	C	169,115	35	
9	文化会館			S54	33	3,605	B	70,157		
10	文化交流センター			H10	14	4,500	A	64,883		
11	生活館			H2	22	409	A	7,558		
12	中央図書館	社会教育系施設	図書館	S63	24	4,419	A	196,741	40	
13	美術博物館		博物館等	S60	27	5,189	A	19,517	45	
14	勇武津資料館			H13	11	325	A	2,898		
15	科学センター・ミール展示館			S44	43	2,990	未	23,618		
16	総合体育館	スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設・体育館施設	S48	39	7,805	B	61,514	50	
17	日吉体育館			S54	33	643	B	11,193		
18	川治公園体育館			S63	24	1,834	A	29,764		
19	ときわスケートセンター		スポーツ施設・スケート施設	S54	33	3,375	A	50,857	55	
20	沼ノ端スケートセンター			H12	12	3,181	A	56,136		
21	白鳥アリーナ			H8	16	9,898	A	126,195		
22	ハイランドスポーツセンター			S42	45	4,307	未	112,229		
23	沼ノ端スポーツセンター		スポーツ施設・屋内競技施設	H22	2	3,098	A	113,674	60	
24	日新温水プール			H2	22	3,015	A	81,815		
25	屋内ゲートボール場			H1	23	1,182	A	7,000		
26	ハイランドスポーツハウス			S44	43	529	未	60,749		
27	サイクリングターミナル			S59	28	1,489	A			
28	緑ヶ丘公園庭球場		スポーツ施設・屋外競技施設	S58	29	290	A	21,195	66	
29	緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場			S63	24	276	A	7,761		
30	緑ヶ丘野球場			S61	26	—	A	19,891		
31	清水野球場			H16	8	—	A			
32	少年野球場			S62	25	—	A			
33	緑ヶ丘公園陸上競技場			S56	31	—	A	—		
34	樽前山7合目ヒュッテ		レクリエーション施設・観光施設	S33	54	120	A	3,322	71	
35	錦大沼公園オートリゾートセンターハウス			H3	21	776	A	74,953		
36	錦大沼公園オートキャンプ場			H4	20	—	A			
37	錦大沼公園青少年キャンプ場			H4	20	—	A	4,535		
38	錦大沼公園温浴施設			H11	13	2,119	A	150,262		
39	モーラップ樽前荘			H11	13	322	A	2,879		
40	緑ヶ丘公園展望台			H10	14	766	A	26,776		
41	労働福祉センター		産業系施設	産業系施設	S51	36	1,100	A	19,723	77
42	テクノセンター				H10	14	1,992	A	28,719	
43	勤労青少年ホーム	S44			43	1,583	未	26,182		
44	ウトナイ交流センター	産業施設・交流センター		H21	3	1,055	A	25,939	82	
45	樽前交流センター			H13	11	420	A	2,214		

No.	施設名	大分類	中分類	建築年	経過年数	床面積	耐震診断	維持管理費 (千円/年)	掲載ページ
46	教育センター	学校教育系施設	その他教育施設	H21	3	2,146	A	21,502	87
47	第1学校給食共同調理場		その他教育・ 学校給食施設	H24	0	4,412	A	303,921	92
48	第2学校給食共同調理場			S53	34	1,047	A	244,954	
49	はなぞの幼稚園	子育て支援施設	幼保・ こども園施設	H3	21	945	A	43,701	97
50	子育て支援センター		幼児・児童施設	H21	3	873	A	15,226	102
51	西弥生児童館		幼児・児童施設 ・児童センター	S56	31	286	未	21,754	107
52	住吉児童センター			H6	18	411	A	21,425	
53	大成児童センター			S47	40	380	未	20,885	
54	日新児童センター			H9	15	411	A	21,457	
55	沼ノ端児童センター			H11	13	420	A	21,621	
56	あさひ児童センター			S48	39	674	未	30,749	
57	錦岡児童センター	H22	2	498	A	23,599			
58	心身障害者福祉センター	保健・福祉施設	障害福祉施設	S52	35	2,681	B	160,151	113
59	心身障害者自立支援センター		H3	21	436	A	55		
60	高齢者福祉センター		高齢福祉施設	H21	3	1,696	A	52,534	118
61	保健センター(健診部門)		保健施設	S53	34	2,245	A	778,968	123
62	市民活動センター		その他 社会保険施設	H6	18	3,110	A	45,514	128
63	健康支援センター			H21	3	1,219	A	—	
64	夜間・休日急病センター	医療施設	医療施設	H21	3	607	A	(778,968)	133
65	市役所本庁舎	行政系施設	庁舎等	S58	29	23,301	A	—	138
66	市役所第2庁舎			S47	40	1,311	A	—	
67	消防署		消防施設	S57	30	1,783	A	552,165	143
68	消防署住吉出張所			H4	20	920	A	106,967	
69	消防署日新出張所			S54	33	682	B	178,246	
70	消防署錦岡出張所			H21	3	1,063	A	191,902	
71	消防署沼ノ端出張所			S58	29	984	A	218,059	
72	消防署新富出張所			S60	27	998	A	218,384	
73	勇払分団詰所			H18	6	156	A	195	
74	植苗分団詰所			H17	7	156	A	155	
75	環境保全課事務所		その他 行政系施設	S55	32	511	A	5,959	149
76	沼ノ端清掃事務所			H11	13	1,107	A	405,147	
77	系井道路管理事務所			S47	40	608	A	107,461	
78	交通安全センター			S58	29	393	A	1,620	
79	サンガーデン	公園	公園	S63	24	2,393	A	29,978	154
80	リサイクルプラザ苫小牧	供給処理施設	供給処理施設	H11	13	2,375	A	24,468	158
81	沼ノ端クリーンセンター		H11	13	20,088	A	556,343		
82	系井清掃センター		S47	40	4,802	未	269,350		
83	高丘霊葬場	その他	その他	H9	15	2,573	A	46,804	163
84	苫小牧駅自由通路		その他・ 駅自由通路	S57	30	699	A	12,262	168
85	沼ノ端自由通路			H19	5	656	A	6,085	
86	水産共同作業場		その他・ 卸売市場	S44	43	294	B	0	173
87	公設地方卸売市場水産棟			S41	46	2,689	A	24,752	
88	公設地方卸売市場青果棟			S46	41	6,243	A	58,248	
89	公設地方卸売市場花き棟			H9	15	1,701	A	37,561	
※保健センター(健診部門)は夜間・休日急病センター維持管理費を含めた金額。				89施設・合計		197,887 m ²		6,740,548 千円	

(2) 地区別・一般公共施設配置状況

地域実態マップは、公共施設の配置状況を、用途別・地域別で多面的に把握するための情報マップです。

図表 3-2-2 苫小牧市地域マップ(平成24年度基準)

苫小牧市一般公共施設配置状況確認表(新分類順)

苫小牧市		【西地区】		【中央地区】					
人口	174,439人	人口	67,700人	人口	64,128人				
面積	561.61km ²	面積	173.1km ²	面積	159.63km ²				
人口密度	310.6人/km ²	人口密度	391.1人/km ²	人口密度	401.7人/km ²				
施設総数	89施設	施設数	21施設	施設数	51施設				
総床面積	197,887m ²	総床面積	26,963m ²	総床面積	125,852m ²				
(大分類)	(中分類)								
広域対応施設	行政系施設	庁舎等			第2庁舎 1,311m ² (S47)	本庁舎(北庁舎) S45) 23,301m ² (S58)			
		その他行政系施設	糸井道路管理事務所 608m ² (S47)		環境保全課事務所 511m ² (S55)	交通安全センター 393m ² (S58)			
	市民文化系施設	文化施設			市民会館 8,907m ² (S43)	文化会館 3,609m ² (S54)	生活館 409m ² (H2)	文化交流センター 4,500m ² (H10)	
	社会教育系施設	図書館			中央図書館 4,419m ² (S63)				
		博物館等			美術博物館 5,189m ² (S60)	科学センター 2,990m ² (S44)			
	供給処理施設	供給処理施設	糸井清掃センター 4,802m ² (S47)						
	スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設			H701 2F-7F(非体育) 4,307m ² (S42)	ハイランドスポーツハウス ターミナル 329m ² (S44)	サイクリングターミナル 1,489m ² (S59)	緑ヶ丘公園遊上施設改修工事(S56)	
		レクリエーション施設・観光施設	樽前山7番目ユッテ 120m ² (S33)	緑大沼公園オートリゾートセンターハリス 776m ² (H3)	緑大沼公園オートキャンプ場(H4)	緑大沼公園青少年キャンプ場(H4)	緑大沼公園遊治施設 2,119m ² (H11)	モーラップ博覧荘 322m ² (H11)	緑ヶ丘公園 766m ² (H10)
	産業系施設	産業系施設				労働福祉センター 1,100m ² (S51)	勤労青少年ホーム 1,583m ² (S44)		
	学校教育系施設	その他教育施設	第2学校給食共同調理場 1,047m ² (S53)						
	子育て支援施設	幼保・こども園					はなその幼稚園 943m ² (H3)		
	保健・福祉施設	高齢福祉施設	障害福祉施設	心身障害者自立支援センター 436m ² (H3)			心身障害者福祉センター 2,681m ² (S52)		
			保健施設				長生センター 2,245m ² (S53)		
			その他社会保険施設						
医療施設		医療施設				夜間・休日急病センター 607m ² (H2-1)			
公園	公園				サンガーデン 2,393m ² (S63)				
その他	その他				公設地方卸売市場水産棟 2,689m ² (S41)	水産共同作業場 294m ² (S44)	公設地方卸売市場青果棟 6,243m ² (S46)	公設地方卸売市場花店棟 1,701m ² (H9)	
地域対応施設	行政系施設	消防施設	消防署 日新出張所 682m ² (S54)	消防署 樽前出張所 1,063m ² (H2-1)		消防署 1,783m ² (S57)	消防署 住吉出張所 920m ² (H4)	消防署 新富出張所 998m ² (S60)	
	市民文化系施設	集会所	豊川コミュニティセンター 2,532m ² (S56)	のぞみコミュニティセンター 2,260m ² (H15)		住吉コミュニティセンター 2,136m ² (S63)			
	スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	日新体育館 643m ² (S54)	とぎわいスケートセンター 3,375m ² (S54)	川沼公園体育館 1,834m ² (S63)	日新風水ホール 3,015m ² (H2)			
	産業系施設	産業系施設	樽前交流センター 420m ² (H13)						
	子育て支援施設	幼児・児童施設	日新児童センター 411m ² (H9)	樽前児童センター 498m ² (H22)		大成児童センター 386m ² (S47)	あさひ児童センター 574m ² (S48)	西野児童館 286m ² (S56)	住吉児童センター 411m ² (H6)

《複合施設》 《関連施設》 凡例: (赤)

基準：平成24年度

【中央地区】		種 内 別	【東地区】	
人口	64,128 人		人口	42,611 人
面積	159.63 k㎡	面積	228.88 k㎡	
人口密度	401.7 人/k㎡	人口密度	186.2 人/k㎡	
施設数	51 施設	施設数	17 施設	
総床面積	125,852 ㎡	総床面積	45,072 ㎡	
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 女性センター 1,390㎡(H6) </div> 《複合施設》			<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 沼ノ端 清掃事務所 1,107㎡(H11) </div> 通訳資料館 325㎡(H13)	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">緑ヶ丘公園 庭球場 290㎡(S58)</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">緑ヶ丘野球場 (S61)</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">少年野球場 (S62)</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">緑ヶ丘公園 サッカー ラグビー場 276㎡(S63)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">清水野球場 (H16)</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">総合体育館 7,805㎡ (S43)</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">屋内ゲート ボール場 1,182㎡ (H1)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">白鳥アリーナ 9,898㎡ (H8)</div>			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼ノ端 コミュニティ 20,088㎡(H11)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">野付町 野 呂小牧 2,375㎡(H11)</div>	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">教育センター 2,146㎡(H21)</div> 《複合施設》			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">テクノセンター 1,992㎡(H10)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ワトナイ 交流センター 1,055㎡(H21)</div>	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">高齢者 福祉センター 1,639㎡(H21)</div> 《複合施設》			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">第1学校給食 科同室連棟 4,412㎡(H24)</div>	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">市民活動 センター 3,110㎡(H6)</div>			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">健康支援 センター 1,219㎡(H21)</div>	
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼小牧駅自由通路 699㎡(S57)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">高丘霊料庫 2,573㎡(H9)</div> 《複合施設》			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼ノ端 自由通路 656㎡(H19)</div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">消防署 沼ノ端出張所 934㎡(S38)</div>			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">橋筋分団駐所 156㎡(H17)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">奥弘分団駐所 156㎡(H18)</div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">善弘公園 1,363㎡(S60)</div>			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼ノ端コミュニティ センター 2,447㎡(H4)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">橋筋ファミリー センター 1,257㎡(H9)</div>	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼ノ端スケート センター 3,181㎡(H12)</div>			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼ノ端スポーツ センター 3,098㎡(H22)</div>	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">子育て 支援センター 873㎡(H21)</div>			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">沼ノ端児童 センター 420㎡(H11)</div>	

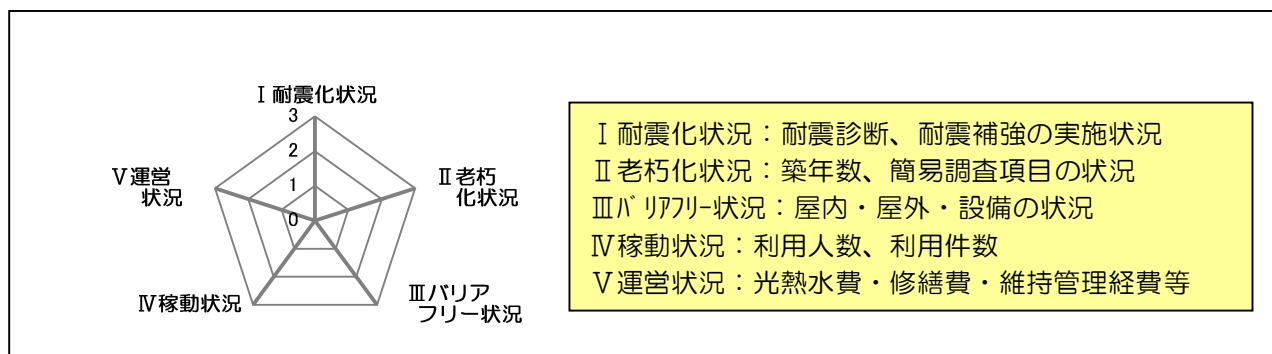
 = 30年以上経過施設。
 = 20年以上経過施設。
 = 20年未満の施設。
 = 旧耐震施設。
 = 新耐震施設。

3 施設評価の方法

(1) 評価項目と評価指標（5軸評価）

施設評価は、以下の5項目の評価軸で各施設を簡易的に評価し、評価軸の重要度に基づき代表的なパターンに分類します。さらに、各施設の評価結果をこのパターンに当てはめて、施設ごとに課題整理のための判断要素とします。

図表 3-3 評価項目と評価指標



評価指標		3	2	1
I 耐震化状況	耐震基準への適合状況	問題なし	対策中	対策が必要

評価指標		3	2	1
II 老朽化状況	施設調査 全36項目の 現状評価	良好な状況	施設維持のため 対応が必要	対策が必要

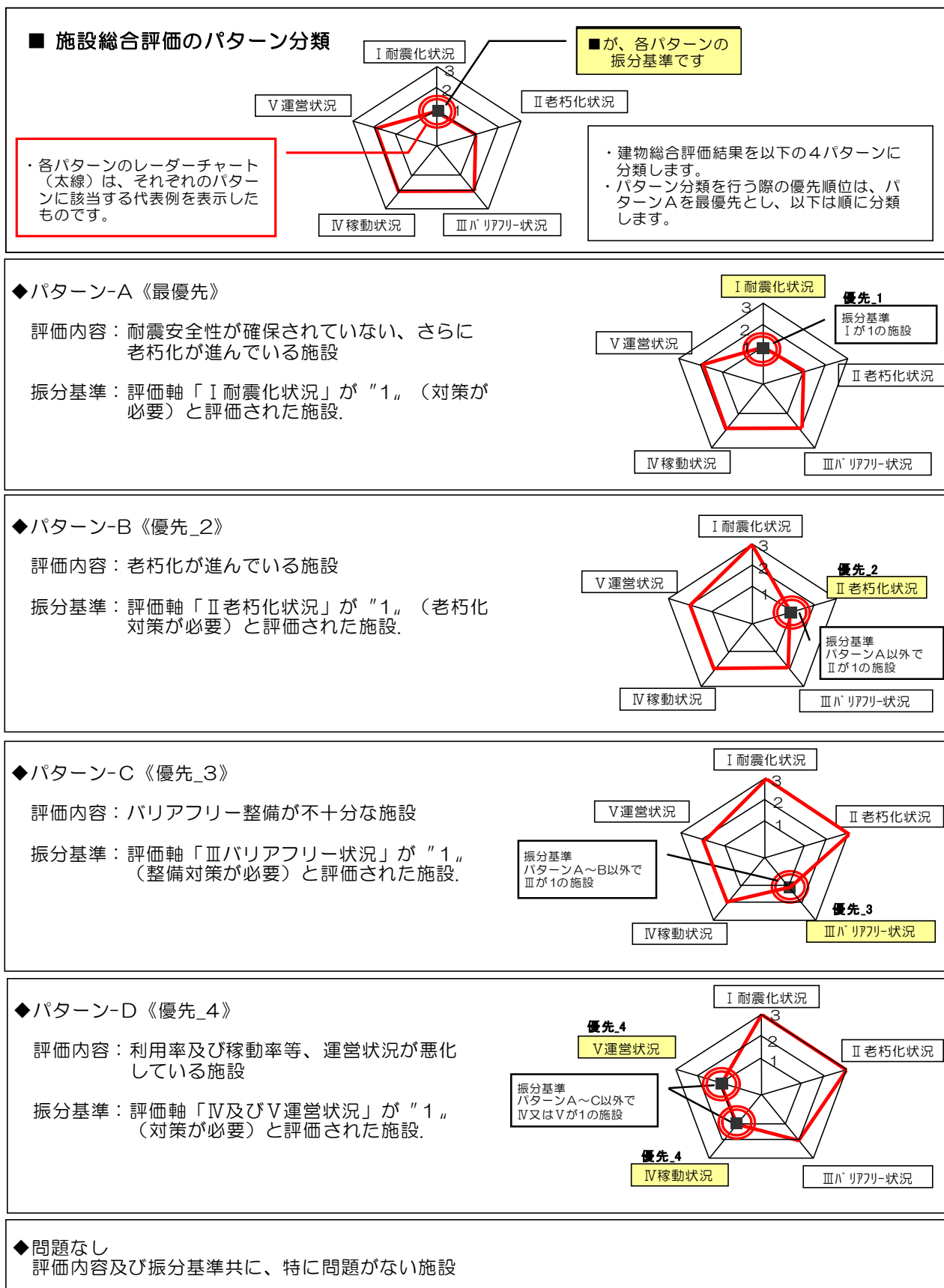
評価指標		3	2	1
III バリアフリー 状況	バリアフリー 主な6項目の 配置状況	対応済み	一部未実施あり	対応が必要

評価指標		3	2	1
IV 稼動状況	施設全体の 貸出実績と 利用者の割合	活用されている	今後工夫が必要	稼動対策が必要

評価指標		3	2	1
V 運営状況	利用者に掛かる 運営経費の割合	良い	運営の工夫が必要	対策が必要

(2) 施設総合評価のパターン分類

図表 3-4 施設総合評価パターン分類



4 主な施設の状況

(1) 市民文化系施設（大分類）

1) 集会施設（中分類）

① 集会施設の概要

集会施設は、本市における地域住民の生活、文化及び教養の向上、福祉や健康などの促進に努め、近隣社会の形成に寄与するため、豊川コミュニティセンター、沼ノ端コミュニティセンター、住吉コミュニティセンター、のぞみコミュニティセンター、植苗ファミリーセンター、勇払公民館、女性センターの7施設を市内各地域に設置しています。

各施設では、趣味や教養などの講座・講習会を開催し、地域の暮らしと文化を高め、豊かな人間性を培う多種多様な学習の機会を提供し、グループやサークル活動をとおして地域の文化祭や展示会・発表会などの活動や施設独自の行事を展開しています。

図表 3-5 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
豊川コミュニティセンター	苫小牧市豊川町3丁目4番21号	昭和56年	2,532	取扱所	○	○	○
沼ノ端コミュニティセンター	苫小牧市沼ノ端中央4丁目10番16号	平成4年	2,447	取扱所	○	○	○
住吉コミュニティセンター	苫小牧市住吉町1丁目3番20号	昭和63年	2,136	取扱所	○	○	○
のぞみコミュニティセンター	苫小牧市のぞみ町1丁目2番5号	平成15年	2,260	出張所	○	○	○
植苗ファミリーセンター	苫小牧市字植苗40番地の55	平成9年	1,257	—	○	○	—
勇払公民館	苫小牧市字勇払33番地	昭和60年	1,363	出張所	○	○	○
女性センター	苫小牧市若草町3丁目3番8号	平成6年	1,390	—	○	○	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。
 ◆「出張所」と「取扱所」で取扱う事務内容が異なりますので注意が必要です。

図表 3-6 施設配置図



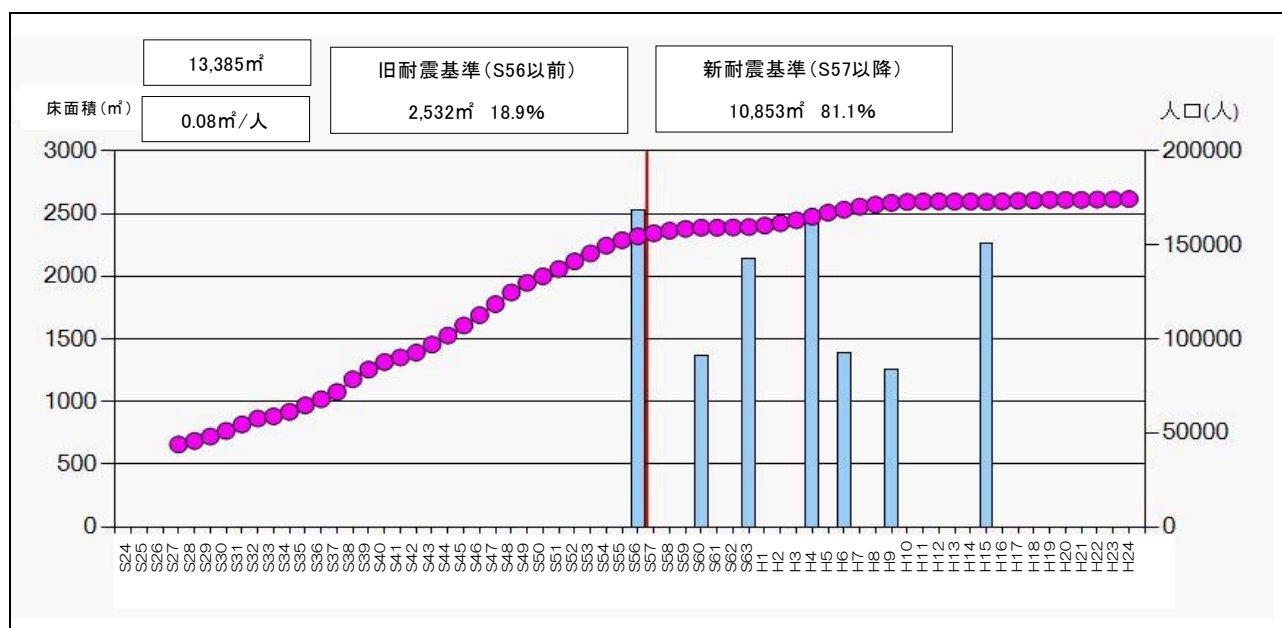
② 建設年度別整備状況

集会施設の床面積は、合計 1 万 3 千㎡です。

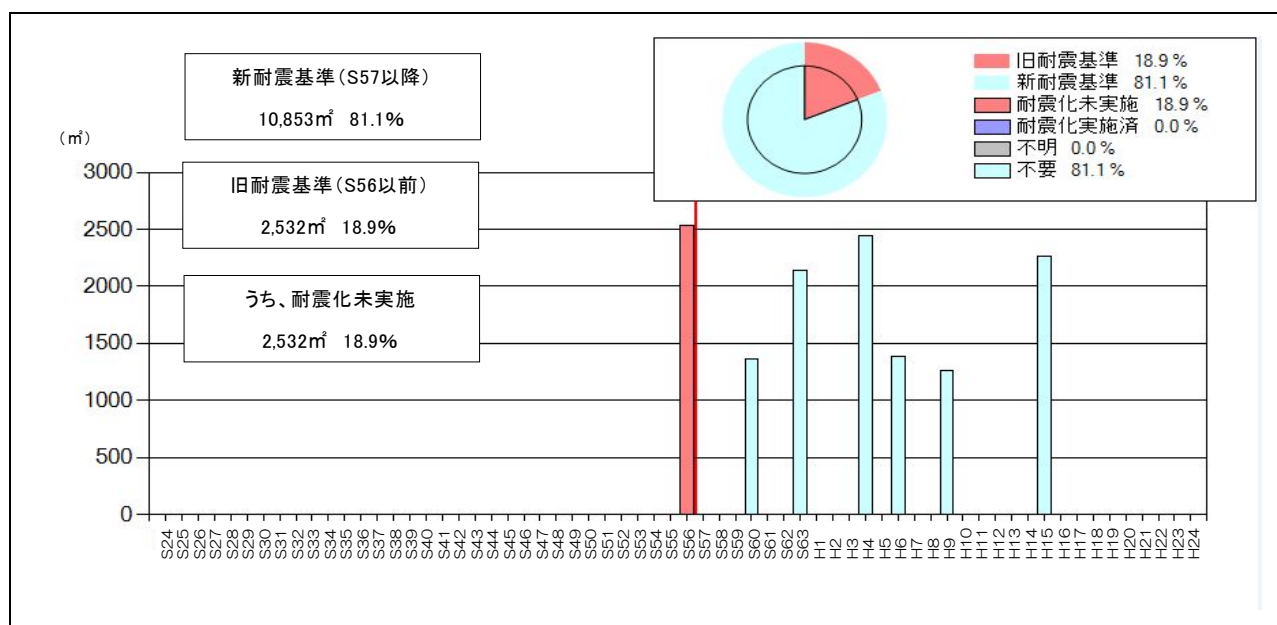
そのうち、旧耐震基準の建物は 1 施設 2 千 500 ㎡（19%）、新耐震基準の建物は 6 施設 1 万 900 ㎡（81%）となっています。

旧耐震基準の豊川コミュニティセンターは、耐震診断を行った結果「A 判定」となっています。

図表 3-7 建設年度別整備状況



図表 3-8 耐震化状況



③ 施設総合評価

集会施設のうち、津波浸水予想エリア外に立地する施設は3施設です。

一時避難所に指定されている施設（●印）は女性センターで、災害対策支部設置施設（■印）にはのぞみコミュニティセンターと勇払公民館が指定されており、救援物資補完施設には豊川コミュニティセンターが指定されています。

また、豊川コミュニティセンターは、既に築30年を超えており、耐震診断の判定結果はA判定でしたが、老朽化が進んでおりバリアフリー設備の整備と併せた対応策が望まれます。

その他6施設についても、それぞれ経過年数から老朽化が懸念されることから、計画的な対応策とともにバリアフリー設備の整備が望まれます。

勇払公民館は、災害対策支部設置施設に指定されていることから非常用電源設備の設置が望まれます。

図表 3-9 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無	救援物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
豊川コミュニティセンター	昭和56年	31	2,532	×	○	○	2	A	○	○
沼ノ端コミュニティセンター	平成4年	20	2,447	×	×	×	1	A	○	○
住吉コミュニティセンター	昭和63年	24	2,136	×	×	○	2	A	×	○
のぞみコミュニティセンター	平成15年	9	2,260	■	×	×	1	A	○	○
植苗ファミリーセンター	平成9年	15	1,257	×	×	○	1	A	×	○
勇払公民館	昭和60年	27	1,363	■	×	×	2	A	×	○
女性センター	平成6年	18	1,390	●	×	×	5	A	○	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。
 (入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-10 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベーター	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価パターン
豊川コミュニティセンター	S56	31	×	○	○	○	○	×	3	2	2	2	3	B
沼ノ端コミュニティセンター	H4	20	-	○	○	○	×	×	3	2	2	2	3	B
住吉コミュニティセンター	S63	24	○	○	○	○	○	○	3	2	3	2	3	B
のぞみコミュニティセンター	H15	9	-	○	-	○	○	○	3	2	3	2	3	B
植苗ファミリーセンター	H9	15	-	○	○	○	×	×	3	3	2	1	2	D
勇払公民館	S60	27	×	○	○	○	○	○	3	3	3	1	2	D
女性センター	H6	18	○	○	○	○	×	○	3	3	3	2	3	D

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、-＝不要・該当なし、

図表 3-11 施設総合評価パターン図

	パターンB 今後 老朽化	パターンB 今後 老朽化	パターンD 稼動状況	パターンD 稼動状況
評	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設
価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_2</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA以外 でII=2の施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_2</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA以外 でII=2の施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA~C以外 でIV=1の施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA~C以外 でIV=1の施設</div>
該当施設	・住吉コミュニティセンター ・のぞみコミュニティセンター	・豊川コミュニティセンター ・沼ノ端コミュニティセンター	・植苗ファミリーセンター	・勇払公民館
コメント	・住吉は築20年を超え、のぞみは築10年近くを経過しており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・豊川は築30年を超え、沼ノ端は築20年を経過しており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・事業内容を充実させるなどの検討が望めます。 (市総人口ではなく、地域人口に対して、利用者を見ると十分活用されています。)	・事業内容を充実させるなどの検討が望めます。 (市総人口ではなく、地域人口に対して、利用者を見ると十分活用されています。)

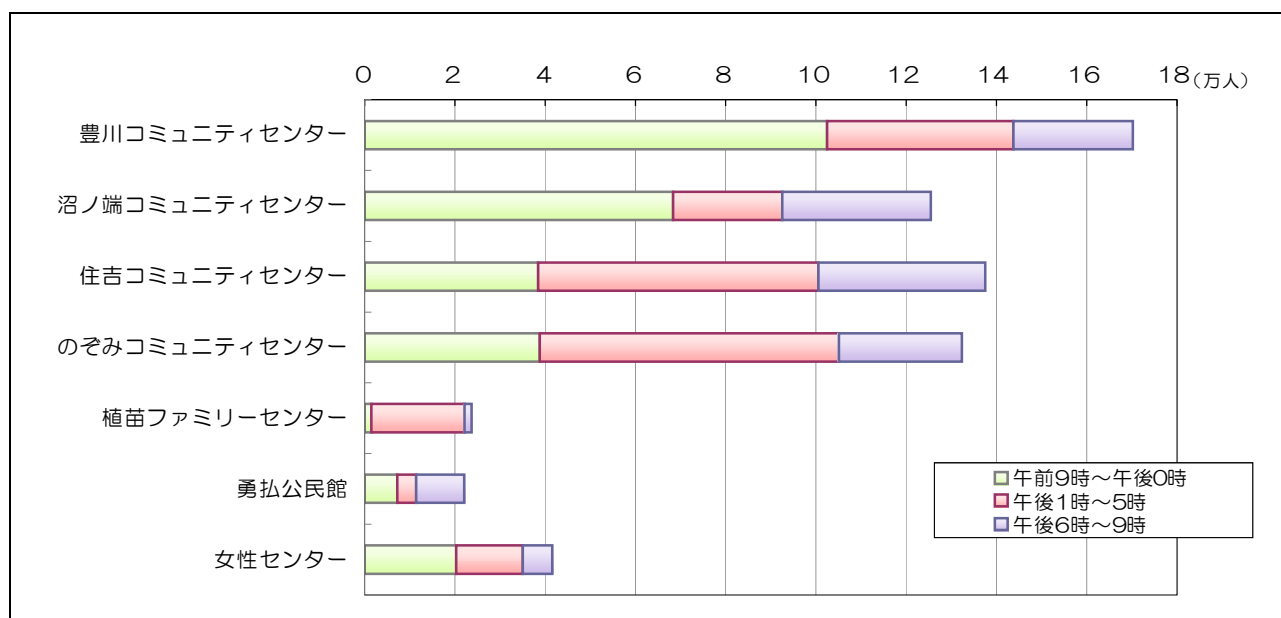
評	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パターンD 稼動状況</div>
価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">振分基準 パターンA~C以外 でIV=2の施設</div>
該当施設	・女性センター
コメント	・事業内容を充実させるなどの検討が望めます。

④ 施設の利用状況

集会施設の年間利用者数は、合計 65 万人です。そのうち豊川コミュニティセンターの利用者は 17 万人、沼ノ端コミュニティセンターは 12 万 5 千人、住吉コミュニティセンターは 13 万 8 千人、のぞみコミュニティセンターは 13 万 2 千人となっています。

なお、豊川コミュニティセンターは、市民一人当たり 1 回利用していることになり、沼ノ端・住吉・のぞみコミュニティセンターは、市民 10 人のうち 7 人がそれぞれの施設を利用していることとなります。また、植苗ファミリーセンターと、勇払公民館の利用が少なくなっていますが、利用対象地域の人口で比較すると植苗ファミリーセンターは、地域住民 1,259 人が年間 18 回以上利用していることになり、勇払公民館は、地域住民 2,314 人が年間 9 回以上利用していることとなります。

図表 3-12 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

集会施設の平成24年度維持管理費は1億8千万円です。

豊川コミュニティセンター、沼ノ端コミュニティセンター、住吉コミュニティセンター及びのぞみコミュニティセンター4施設の利用者一人当たりの維持管理費は、200円台となります。

なお、勇払公民館の利用者一人当たりの維持管理経費は、1千800円となっており、他の施設より突出しています。

図表 3-13 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
豊川コミュニティセンター	2,532	358	170,225	34,182	201	196
沼ノ端コミュニティセンター	2,447	358	125,478	30,222	241	173
住吉コミュニティセンター	2,136	358	137,562	28,016	204	161
のぞみコミュニティセンター	2,260	358	132,351	29,241	221	168
植苗ファミリーセンター	1,257	358	23,700	19,420	819	111
勇払公民館	1,363	359	22,109	36,610	1,656	210
女性センター	1,390	359	41,574	2,766	67	16
合計	13,385		652,999	180,457		

⑥ 検討の視点

- ・地域住民の生活、文化及び教養の向上、福祉や健康促進に努める目的で7施設を西地区に2施設、中央地区に2施設、東地区に3施設とバランス良く設置しています。
- ・一時避難所に女性センターが指定されています。
- ・災害対策支部設置施設にはのぞみコミュニティセンターと勇払公民館が指定されており、救援物資補完施設には豊川コミュニティセンターが指定されています。
- ・豊川・沼ノ端・のぞみコミュニティセンターと女性センターには非常電源設備が備えてあり、女性センターを除く集会施設には入浴設備が備えています。
- ・豊川コミュニティセンターは、旧耐震基準で耐震診断が「A判定」となっているが老朽化が進んでいます。
- ・豊川コミュニティセンター、住吉コミュニティセンター及び植苗ファミリーセンターの3施設は、津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・災害時において、重要な拠点としての機能が備わっている施設です。
- ・集会施設7ヶ所の利用者数は、全体で年間65万人です。
- ・集会施設7ヶ所の年間運営費は1億8千万円です。

4 主な施設の状況

(1) 市民文化系施設（大分類）

2) 文化施設（中分類）

① 文化施設の概要

文化施設は、本市における地域住民の生活、文化及び教養の向上、福祉や健康などの促進に努め、近隣社会の形成に寄与するため、市民会館、文化会館、文化交流センター、生活館の4施設を設置しています。

各施設では、趣味や教養などの講座・講習会を開催し、地域の暮らしと文化を高め、豊かな人間性を培う多種多様な学習の機会を提供しており、グループやサークル活動をとおして地域の文化祭や展示会・発表会など施設独自の行事を展開しています。

図表 3-14 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
市民会館	苫小牧市旭町3丁目2番2号	昭和43年	8,907	—	○	—	—
文化会館	苫小牧市旭町2丁目8番19号	昭和54年	3,605	—	○	—	—
文化交流センター	苫小牧市本町1丁目6番1号	平成10年	4,500	—	○	—	—
生活館	苫小牧市矢代町2丁目1番11号	平成2年	409	—	○	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-15 施設配置図

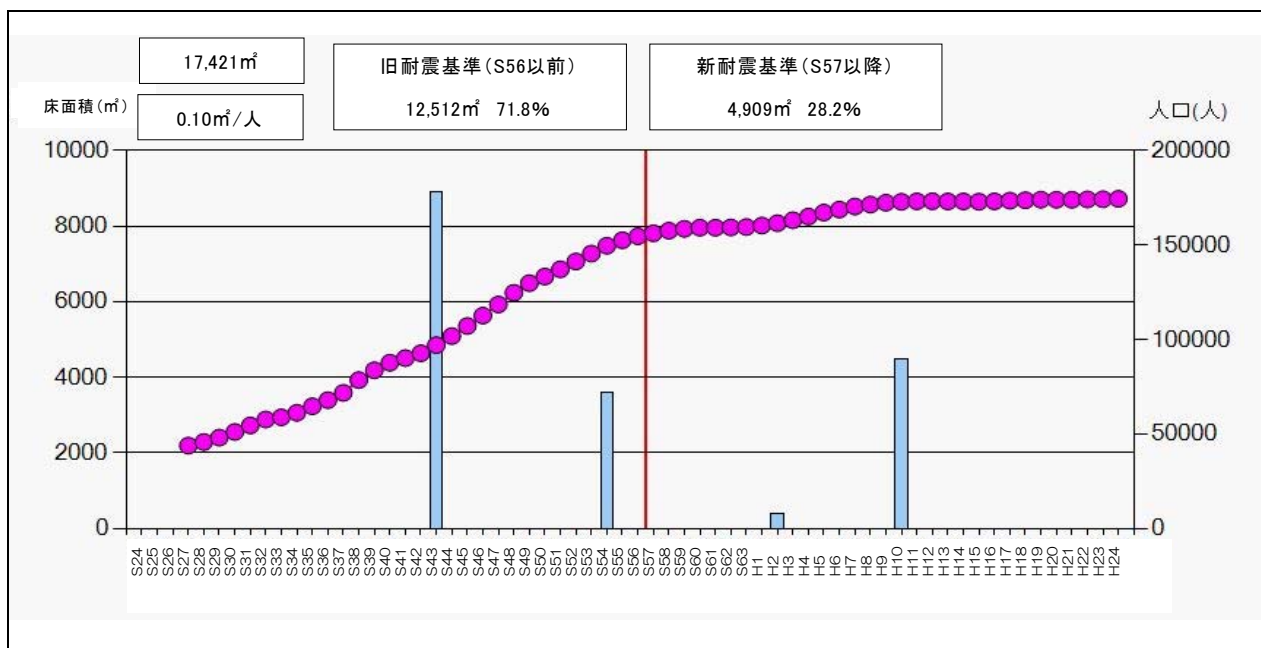


② 建設年度別整備状況

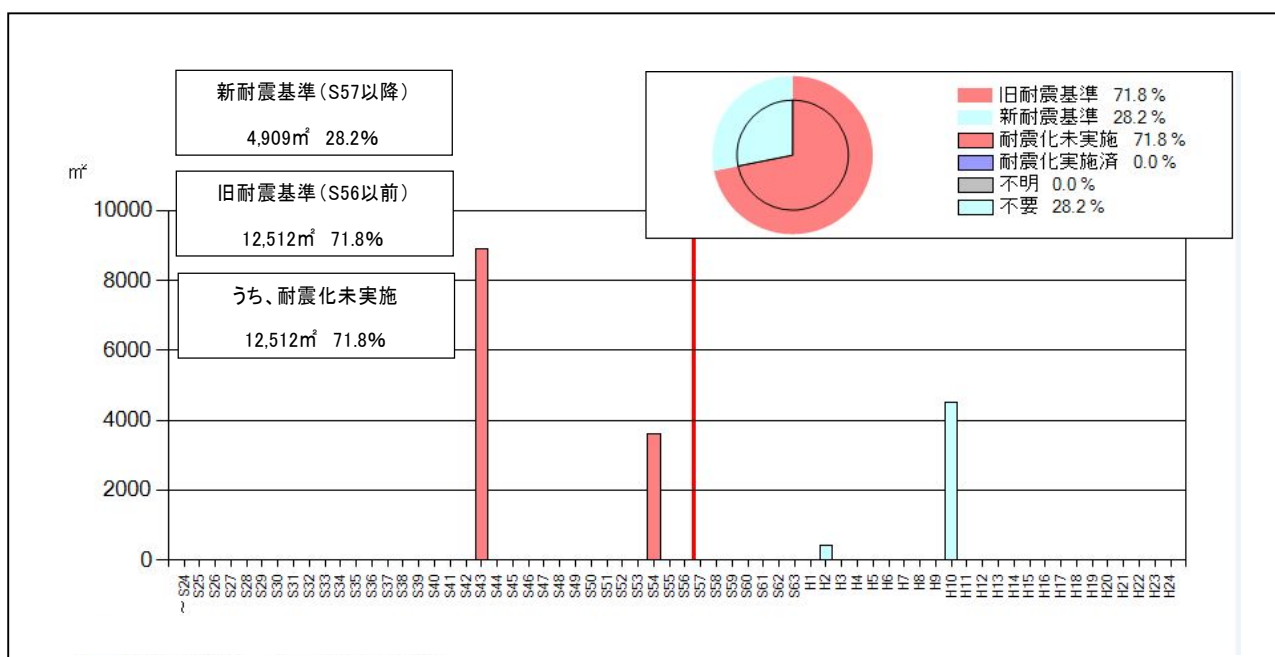
文化施設の床面積合計は、1万7千㎡です。そのうち、旧耐震基準の建物は2施設1万2千500㎡（72%）、新耐震基準の建物は2施設4千900㎡（約28%）となっています。

旧耐震基準の市民会館は、耐震診断を行った結果「C判定」となっています。
また、文化会館の耐震診断結果は「B判定」となっています。

図表 3-16 建設年度別整備状況



図表 3-17 耐震化状況



③ 施設総合評価

文化施設は、津波浸水予想エリア外に立地している施設がありません。

文化交流センターは一時避難所（●印）に指定されており、非常電源設備は備えていますが、入浴設備は備えられていません。

一時避難所等指定以外の施設では、市民会館は救援物資補完施設に指定されており、非常電源設備と入浴設備を備えております。

文化会館は非常電源設備を備えています。

市民会館及び文化会館は、既に築30年から40年と相当な年数を経過しており、耐震性にも不安があるため大規模改修や建替を視野に、老朽化及びバリアフリー設備を含めた対応策の検討が望まれます。

文化交流センターと生活館は、今後の老朽化に対応した検討を始める時期に来ているといえます。

図表 3-18 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無	救援物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
市民会館	昭和43年	44	8,907	×	○	×	6	C	○	○
文化会館	昭和54年	33	3,605	×	×	×	4	B	○	×
文化交流センター	平成10年	14	4,500	●	×	×	4	A	○	×
生活館	平成2年	22	409	×	×	×	1	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-19 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
市民会館	S43	44	○	○	○	○	○	×	1	2	3	2	2	A
文化会館	S54	33	○	○	○	○	○	○	2	3	3	2	3	A
文化交流センター	H10	14	○	○	-	○	○	○	3	3	3	2	3	D
生活館	H2	22	-	○	○	×	×	○	3	3	2	1	2	D

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-20 施設総合評価パターン図

	パターンA 耐震化	パターンA 耐震化	パターンD 稼動状況	パターンD 稼動状況
評価	<ul style="list-style-type: none"> 耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性の確保が必要な施設 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震安全性に不安がある ⇒今後、計画的な耐震安全性の確保が必要な施設 	<ul style="list-style-type: none"> 稼動率が低下している ⇒今後、稼動率の改善が必要な施設 	<ul style="list-style-type: none"> 稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設
評価	<p>優先_1</p> <p>振分基準 I=1の施設</p>	<p>優先_1</p> <p>振分基準 I=2の施設</p>	<p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA~C以外でIV=2の施設</p>	<p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA~C以外でIV=1の施設</p>
当該施設	<ul style="list-style-type: none"> 市民会館 	<ul style="list-style-type: none"> 文化会館 	<ul style="list-style-type: none"> 文化交流センター 	<ul style="list-style-type: none"> 生活館
コメント	<ul style="list-style-type: none"> 築40年を超えており、耐震対策とともに、今後の在り方を含めた大規模改修が望まれます。 	<ul style="list-style-type: none"> 築30年を超えており、他の類似施設との複合化も視野に、耐震改修の検討が必要になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 築14年を経過していますが、老朽化が少なく、バリアフリーも整備されています。稼動率については、事業内容などにより、検討が望まれます。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容を充実させるなどの検討が望まれます。

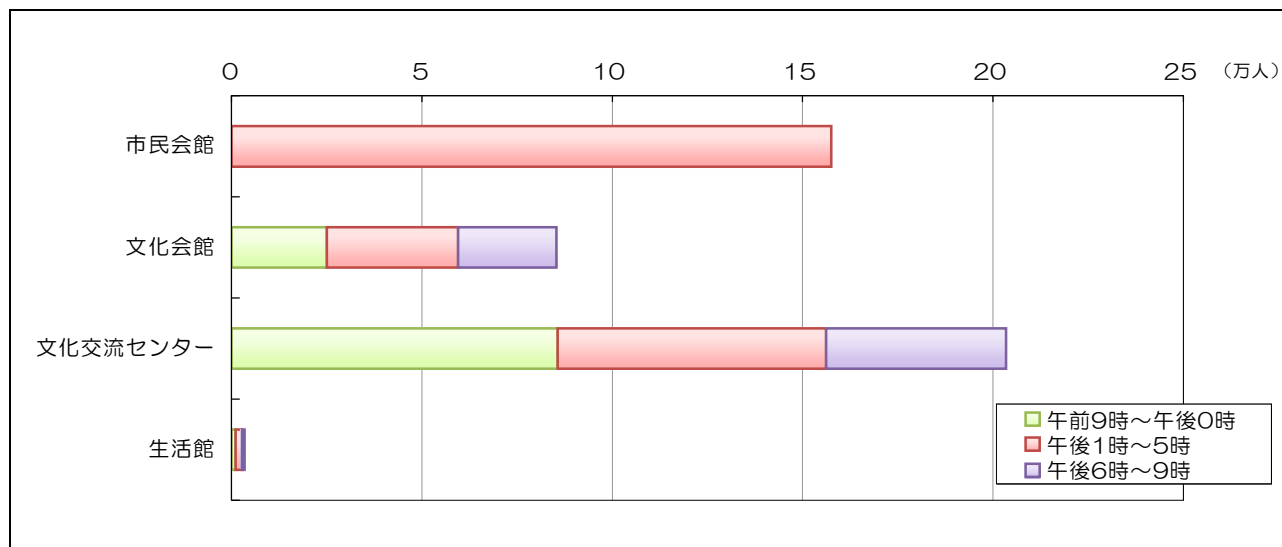
④ 施設の利用状況

文化施設の年間利用者（ホール及び会議室等の利用者）数は、合計 45 万人です。

そのうち市民会館の利用者は 15 万 8 千人、文化会館は 8 万 5 千人、文化交流センターは 20 万 3 千人、生活館は 3 千人となっています。

なお、市民会館は市民 10 人に 9 人が 1 回利用していることになり、文化交流センターは、市民一人当たり 1.2 回利用していることとなります。

図表 3-21 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

文化施設の平成24年度維持管理費は3億1千万円です。

この4施設の利用者一人当りの維持管理費は300円から2千円までの差があり、生活館の利用者一人当りの維持管理費が2千円台と突出しています。

図表 3-22 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
市民会館	8,907	359	157,504	169,115	1,074	969
文化会館	3,605	359	85,332	70,157	822	402
文化交流センター	4,500	360	203,408	64,883	319	372
生活館	409	308	3,410	7,558	2,216	43
合計	17,421		449,654	311,713		

⑥ 検討の視点

- ・地域住民の生活、文化及び教養の向上を目的に市民会館など4施設を中央地区に設置しています。
- ・新耐震基準の建物と、旧耐震基準の建物はそれぞれに2施設あります。
- ・旧耐震基準の市民会館・文化会館の耐震診断結果は「C・B判定」です。
- ・文化施設は、4施設とも津波浸水予想エリア外に立地していません。
- ・市民会館は、救援物資補完施設に指定されています。
- ・市民会館は、非常電源設備と入浴設備を備えています。
- ・文化会館と文化交流センターは、非常電源設備を備えています。
- ・文化交流センターは、一時避難所に指定されています。
- ・市民会館及び文化会館は、築30から40年経過し耐震性にも不安があることから、老朽化及びバリアフリー設備を含めた対応策の検討が望まれます。

4 主な施設の状況

(2) 社会教育系施設（大分類）

1) 図書館（中分類）

① 中央図書館の概要

中央図書館は、本市における教育と文化の発展に寄与するため、昭和63年11月に開設しました。

図書資料や郷土資料の収集保存に努め、様々な社会変化に適応する知識・情報の提供など図書館機能の整備拡充に努めています。

また、多種多様な学習の機会を提供するために読書会、研究会、講演会、鑑賞会、映写会、資料展示会等の開催を行っています。



中央図書館

図表 3-23 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 ^{※1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
中央図書館	苫小牧市末広町3丁目1番15号	昭和63年	4,419	—	—	○	—

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

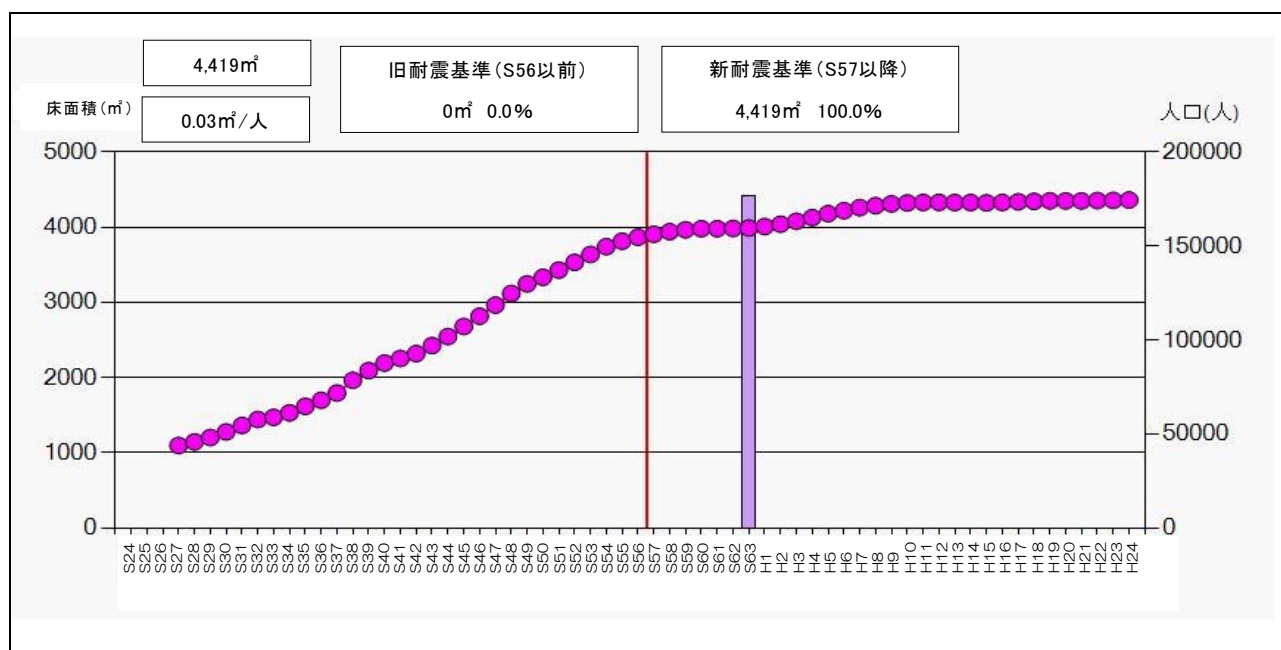
図表 3-24 施設配置図



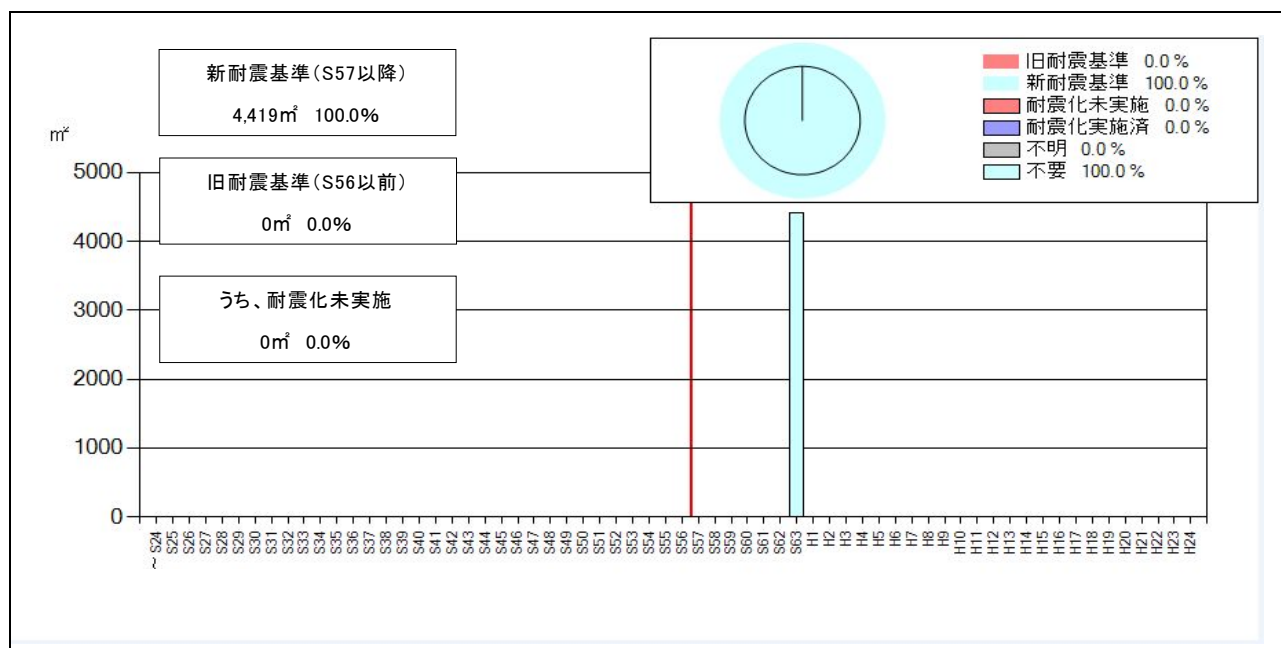
② 建設年度別整備状況

中央図書館の床面積は4千400㎡で、昭和63年に建設された新耐震基準の建物です。

図表 3-25 建設年度別整備状況



図表 3-26 耐震化状況



③ 施設総合評価

中央図書館は、文化公園内に位置しており、津波浸水予想エリア外に立地する施設です。また、避難所等に指定されていませんが、非常電源設備を備えています。

既に築24年を経過し老朽化が見受けられることから、バリアフリー設備や屋外からのアプローチなどの整備を含めた計画的な対応策が必要となっています。

図表 3-27 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等	救援補完施設 物資	津波浸水予想 エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
中央図書館	昭和63年	24	4,419	×	×	○	2	A	○	×

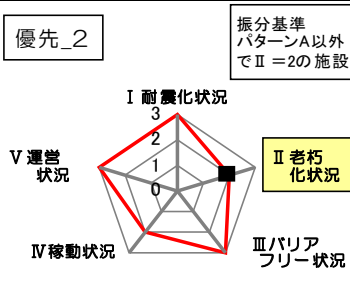
凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-28 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価 パターン
中央図書館	S63	24	○	○	×	○	○	○	3	2	3	2	3	B

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

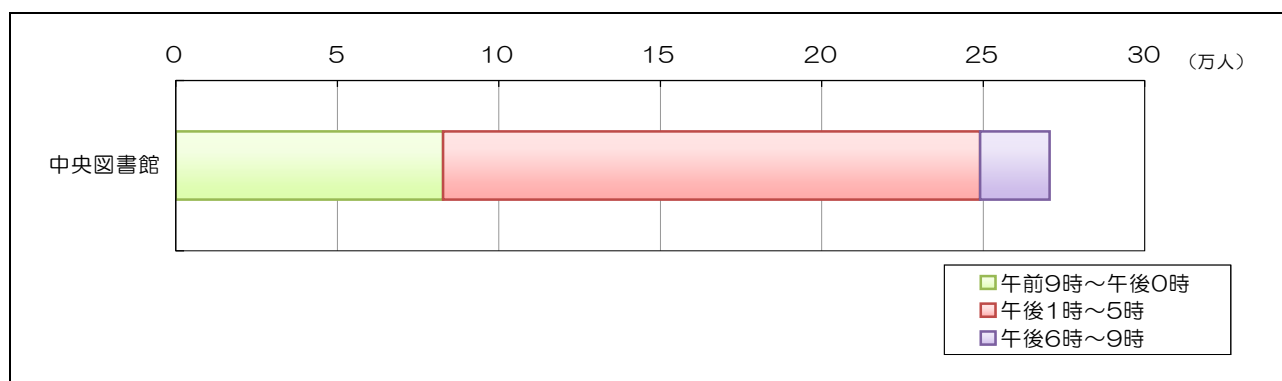
図表 3-29 施設総合評価パターン図

評 価	パターンB 今後 老朽化
	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設
該 当 施 設	優先_2 振分基準 パターンA以外 でII=2の施設
	
コ メ ン ト	・中央図書館
	・中央図書館
	築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。

④ 施設の利用状況

中央図書館の年間利用者数は、27万人で、市民1人当たり1.6回利用していることとなります。

図 3-30 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

図書館の平成24年度維持管理費は2億円です。利用者一人当りの維持管理費は、727円となります。

なお、現在直営で管理運営を行っていますが、平成26年4月から効率的な管理運営と市民サービスの向上を図ることから、指定管理者制度を導入することとなっています。

図3-31 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
中央図書館	4,419	288	270,543	196,741	727	1,128
合計	4,419		270,543	196,741		

⑥ 検討の視点

- ・昭和63年の設置から既に24年を経過しています。
- ・老朽化とバリアフリーの対応策の検討が望まれます。
- ・現在の蔵書数は、49万6千冊となっています。
- ・津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・避難所等には指定されていませんが、非常電源設備を備えています。
- ・施設の年間利用者数は、27万人で市民1人当たり1.6回の利用です。
- ・1回の利用が727円となっています。

4 主な施設の状況

(2) 社会教育系施設（大分類）

2) 博物館等（中分類）

① 博物館等の概要

博物館等の施設は、本市における地域住民の教育、学術及び文化の振興発展を図るため、博物館法の規定に基づき、苫小牧市美術博物館を設置しています。

また、勇払地域に関する文化財等の保存及び活用を図り文化の向上に資するため、勇武津資料館を設置しています。

さらに、産業・自然科学などに関する資料の収集、保管及び展示や講演会、研修会、観察会、鑑賞会などを開催し青少年の科学的知識の普及と文化の向上を図るため、科学センターを設置しています。

図表 3-32 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
美術博物館	苫小牧市末広町3丁目9番7号	昭和60年	5,189	—	—	—	—
勇武津資料館	苫小牧市字勇払132番地の32	平成13年	325	—	○	—	—
科学センター・ミール展示館	苫小牧市旭町3丁目1番12号	昭和44年	2,990	—	○	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-33 施設配置図

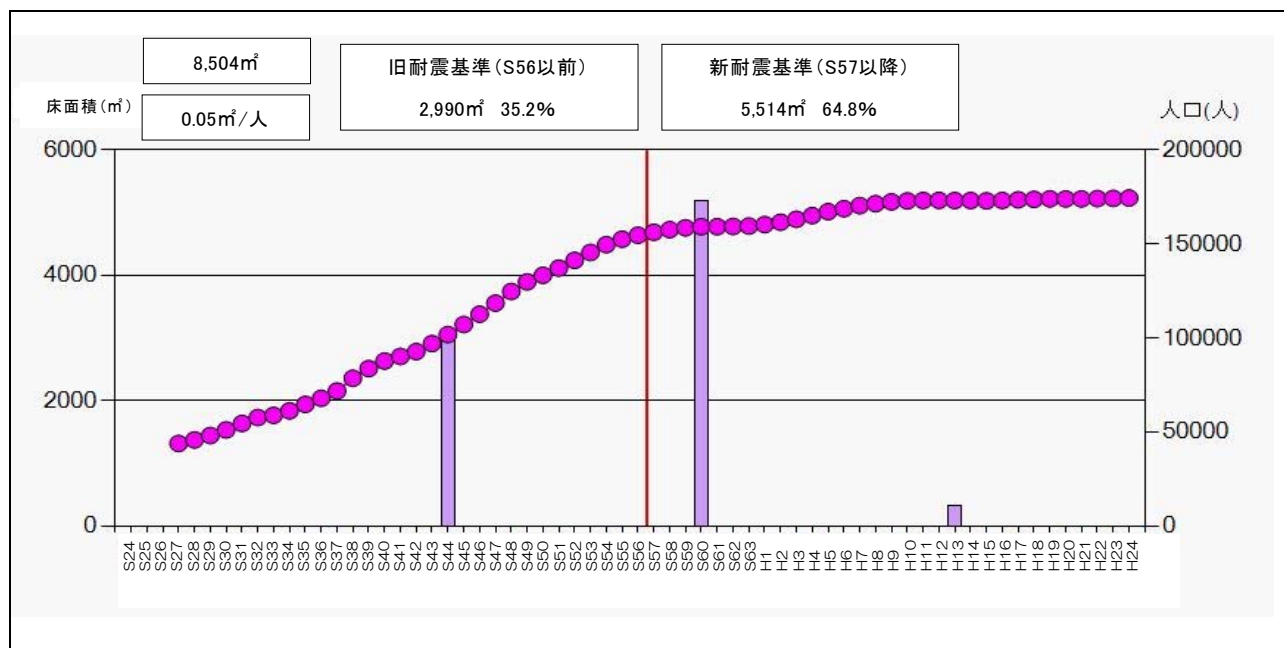


② 建設年度別整備状況

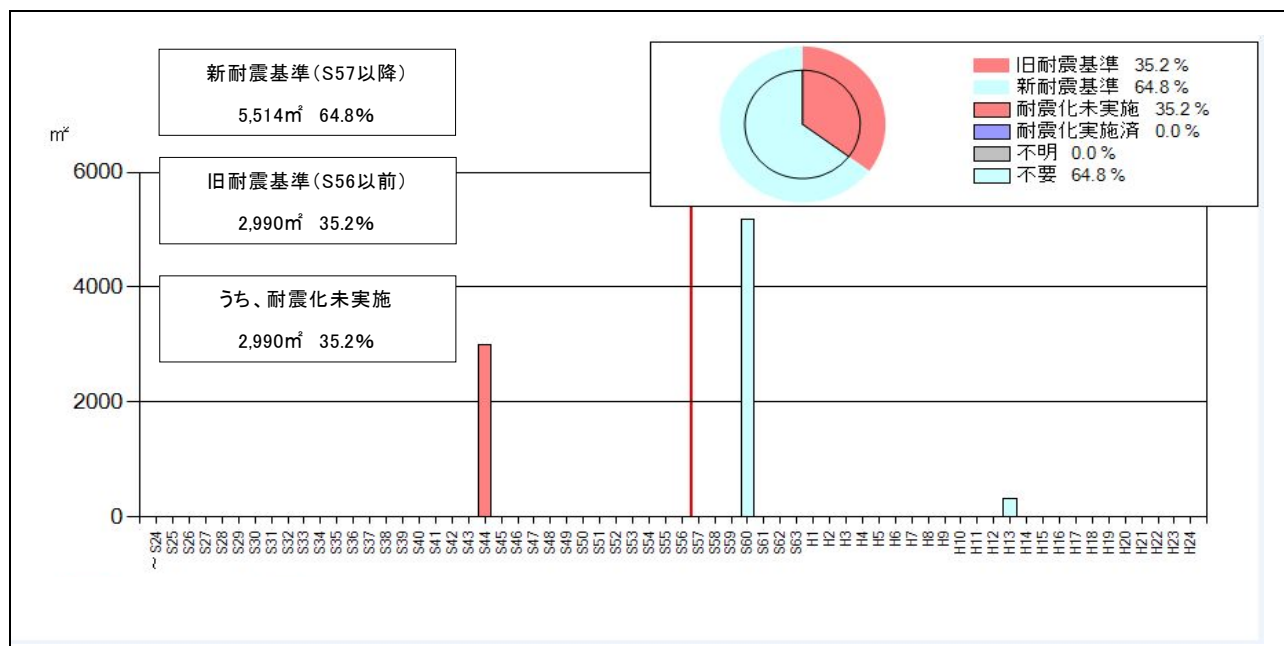
博物館等施設の床面積は合計 9 千㎡です。

そのうち、旧耐震基準の建物は 1 施設 3 千㎡ (35%)、新耐震基準の建物は 2 施設 5 千 500 ㎡ (65%) となっています。

図表 3-34 建設年度別整備状況



図表 3-35 耐震化状況



③ 施設総合評価

博物館等施設のうち、美術博物館は津波浸水予想エリア外に立地しています。

3施設とも、避難所等には指定されていませんが、美術博物館には非常電源設備を備えています。

また、美術博物館及び勇武津資料館は、築10年から20年以上が経過し、老朽化が見受けられるため、計画的な対応策が望まれます。

科学センターは、築40年以上経過しており、耐震不安及び老朽化が進んでいることから、バリアフリー設備も含め早急に総合的な対応策の検討が望まれます。

図表 3-36 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等	救援補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
美術博物館	昭和60年	27	5,189	×	×	○	2	A	○	×
勇武津資料館	平成13年	11	325	×	×	×	1	A	×	×
科学センター・ミール展示館	昭和44年	43	2,990	×	×	×	4	未	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-37 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価 パターン
美術博物館	S60	27	○	○	○	○	○	○	3	2	3	2	3	B
勇武津資料館	H13	11	-	○	○	○	×	×	3	2	2	1	3	D
科学センター・ミール展示館	S44	43	×	○	○	×	○	×	1	2	2	2	3	A

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-38 施設総合評価パターン図

	パターンA 耐震化	パターンB 今後 老朽化	パターンD 稼働状況
評価	<p>・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性の確保が必要な施設</p> <p>優先_1 振分基準 I = 1の施設</p>	<p>・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設</p> <p>優先_2 振分基準 パターンA以外でII = 2の施設</p>	<p>・稼働率が低下している ⇒稼働率の改善が必要な施設</p> <p>優先_4 振分基準 パターンA~C以外でIV = 1の施設</p>
該当施設	<p>・科学センター・ミール展示館</p>	<p>・美術博物館</p>	<p>・勇武津資料館</p>
コメント	<p>・築40年を超えており、老朽化対策とともに、今後の在り方を含めた大規模改修の検討が望まれます。</p>	<p>・平成25年完成した美術館が併設されており、既設の博物館については計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。</p>	<p>・事業内容を充実させるなどの検討が望まれます。</p>

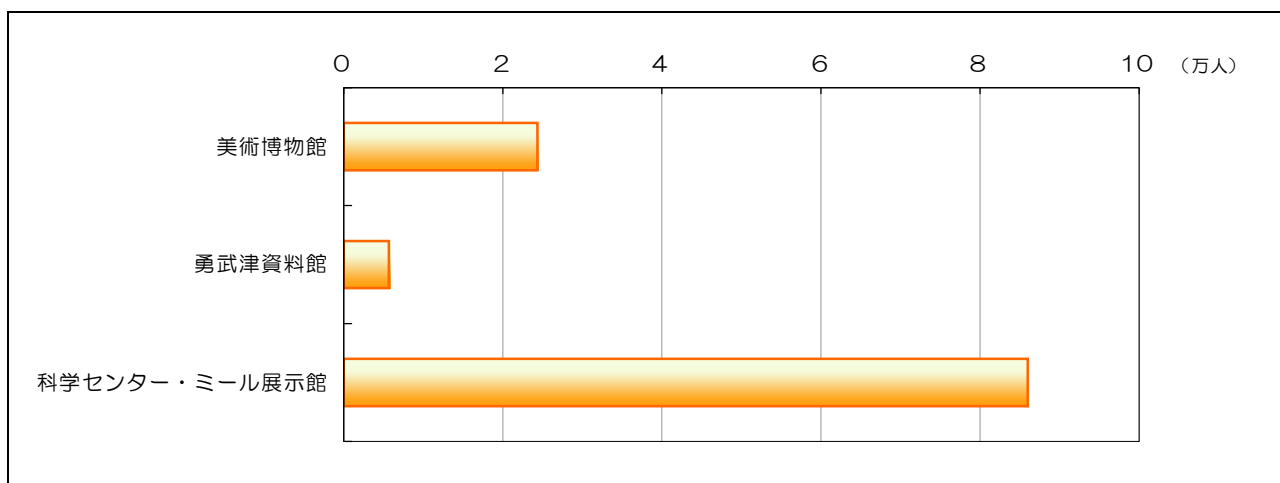
④ 施設の利用状況

博物館等の年間利用者数は、合計 11 万 6 千人です。

そのうち美術博物館 2 万 4 千人、勇武津資料館 6 千人、科学センター・ミール展示館 8 万 6 千人となっています。

なお、美術博物館については、平成24年8月20日から平成25年3月31日まで、改修工事のため休館しました。

図表 3-39 施設年間利用者数



⑤ 運営状況

美術博物館等の平成24年度維持管理費は、4千600万円です。

美術博物館は、利用者一人当りの維持管理費が科学センター・ミール展示館の3倍となっておりますが、改修工事のため閉館したことによるもので、今後利用者の増加が期待されます。

図表 3-40 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
美術博物館	5,189	121	24,337	19,517	802	112
勇武津資料館	325	293	5,679	2,898	510	17
科学センター・ミール展示館	2,990	284	86,018	23,618	275	135
合計	8,504		116,034	46,033		

⑥ 検討の視点

- ・市民の教育、学術及び文化の振興を図るため美術博物館等を3施設設置しています。
- ・新耐震基準の建物は2施設で、旧耐震基準の建物は1施設です。
- ・科学センターは、耐震診断が未実施であり既に築43年を経過しています。
- ・美術博物館は津波浸水予想エリア外に立地し、非常電源設備を備えています。
- ・各施設の年間利用者数は、3施設合計で11万6千人です。

4 主な施設の状況

(3) スポーツ・レクリエーション系施設（大分類）

1) スポーツ施設・体育館施設（中分類）

① 体育館施設の概要

苫小牧市は、スポーツを通じて健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築くことを目的に、昭和41年に全国で初の「スポーツ都市宣言」を行いました。市民のスポーツ熱を高めるために、多様なスポーツ活動に対応できるスポーツ施設の充実に力を注ぎ、今では、「市民のだれもが・いつでも・どこでも」四季折々にさまざまなスポーツに親しんでいます。

本市における市民の心身の健全な発達及び体育の普及振興を図るため、総合体育館を拠点施設として中央地区に設置しています。また、地域の中で気軽にスポーツを楽しみながら、スポーツコミュニティの場づくりを目的に日吉体育館を設置し、さらに旧建設省が制定した健康運動公園構想の道内第1号として、当時人口増加の著しい西地区に川沿公園体育館を設置しています。

図表 3-41 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
総合体育館	苫小牧市末広町3丁目2番16号	S48	7,805	—	○	—	○
日吉体育館	苫小牧市日吉町3丁目4番3号	S54	643	—	○	—	○
川沿公園体育館	苫小牧市川沿町4丁目6番1号	S63	1,834	—	—	—	○

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-42 施設配置図



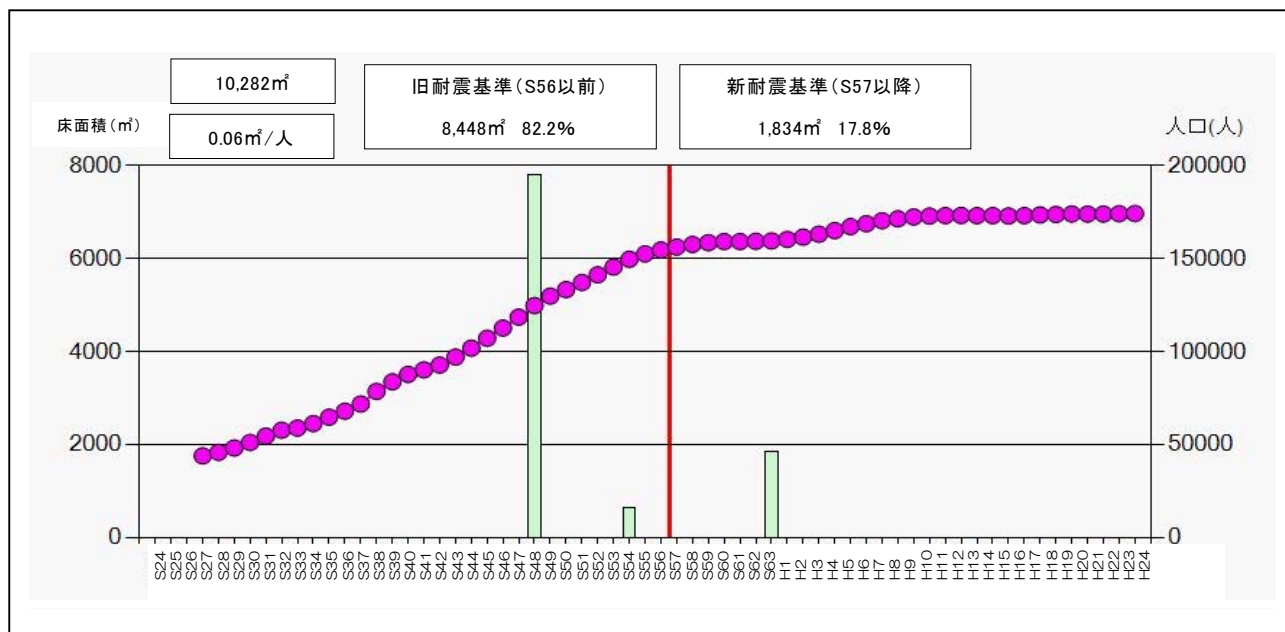
② 建設年度別整備状況

体育館施設の床面積合計は1万㎡です。

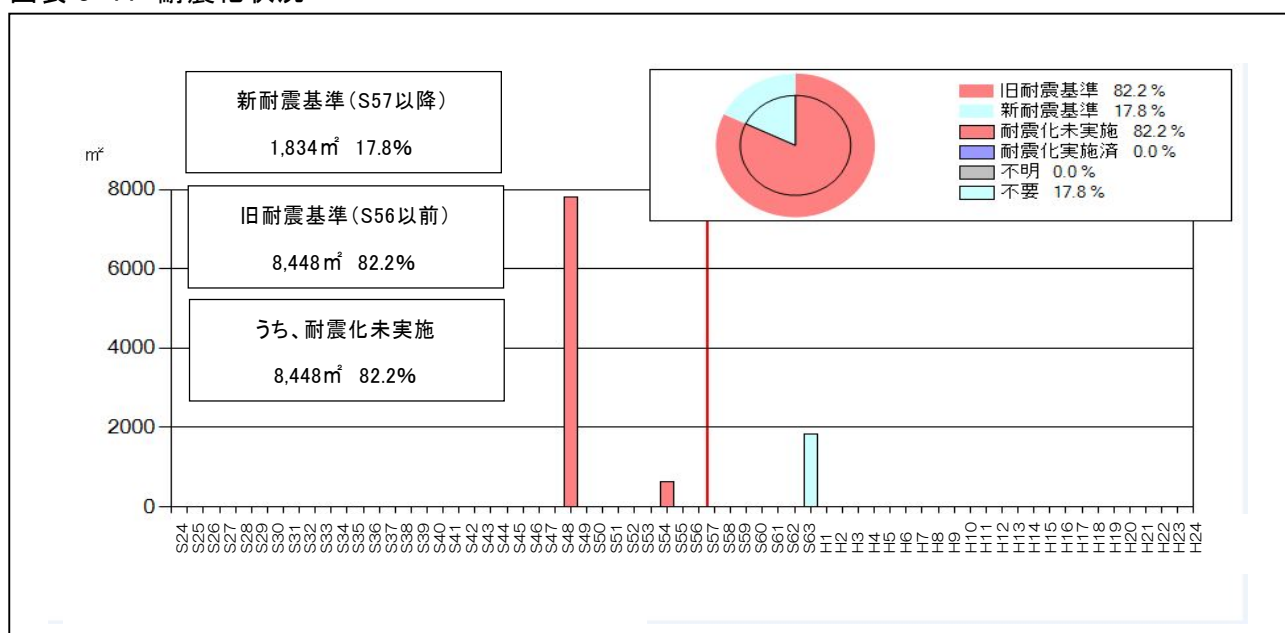
そのうち、旧耐震基準の建物は2施設8千400㎡（82%）、新耐震基準の建物は1施設1千800㎡（18%）となっています。

旧耐震基準の2施設は、耐震診断を行った結果「B判定」となっています。

図表 3-43 建設年度別整備状況



図表 3-44 耐震化状況



③ 施設総合評価

総合体育館は、津波浸水予想エリア外に立地し、救援物資総合センターの指定を受けており、非常電源設備及び入浴設備を備えています。

なお、川治公園体育館は、津波浸水予想エリア外には立地していませんが、救援物資補完施設となっており、入浴設備を備えています。

日吉体育館は、津波浸水予想エリア外には立地していませんが、救援物資補完施設となっており、非常電源設備及び入浴設備は備えていません。

総合体育館は築40年近く経過し、日吉体育館は築30年を超え耐震性に不安があり、老朽化が進んでいることから大規模改修を視野に、バリアフリー設備の整備も含めた対応策の検討が必要と思われます。

さらに川治公園体育館については、新耐震基準の建物ですが既に築20年以上が経過し、老朽化やバリアフリー設備の計画的な整備が望まれます。

図表 3-45 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無	救援物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
総合体育館	昭和48年	39	7,805	×	○	○	2	B	○	○
日吉体育館	昭和54年	33	643	×	○	×	1	B	×	×
川治公園体育館	昭和63年	24	1,834	×	○	×	1	A	×	○

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。
 (入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-46 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベーター	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
総合体育館	S48	39	×	○	○	○	○	○	2	2	3	2	3	A
日吉体育館	S54	33	—	×	×	×	×	×	2	2	1	2	3	C
川治公園体育館	S63	24	—	○	○	○	×	×	3	2	2	2	3	B

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、—＝不要・該当なし、

図表 3-47 施設総合評価パターン図

	パターンA 耐震化	パターンB 今後 老朽化	パターンC バリアフリー
評価	・耐震安全性に不安がある ⇒今後、計画的な耐震安全性の確保が必要な施設	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
	<p>優先_1</p> <p>振分基準 I = 2の施設</p>	<p>優先_2</p> <p>振分基準 パターンA以外でII = 2の施設</p>	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外でIII = 1の施設</p>
該当施設	・総合体育館	・川沿公園体育館	・日吉体育館
コメント	・築40年近く経過しており、耐震対策とともに、老朽化対策やバリアフリー化を含めた、計画的な大規模改修の検討が必要になっています。	・築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・築30年を超えており、バリアフリー化とともに、計画的な改修の検討が必要になっています。

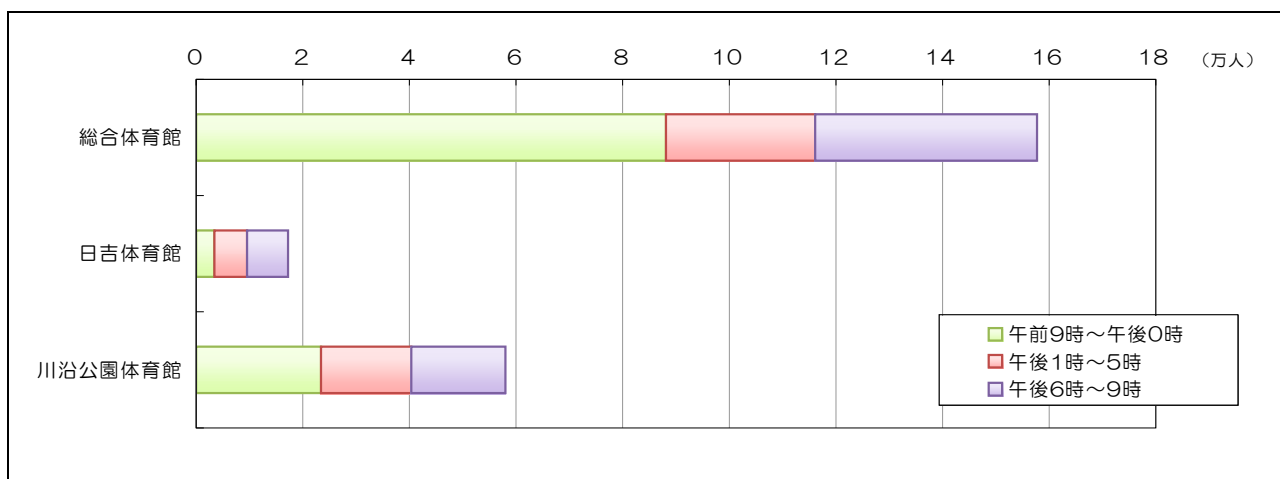
④ 施設の利用状況

体育館施設の年間利用者数は、23万3千人です。

そのうち総合体育館の利用者は15万8千人で、市民10人中9人が1回利用していることとなります。

また、3施設の合計では、市民一人当たり1.3回利用していることとなります。

図表 3-48 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

体育館施設3館は、指定管理者によって運営され平成24年度維持管理費は1億200万円になります。

利用者一人当たりの維持管理費は、日吉体育館が最も高くなっており、最少の総合体育館の1.7倍となっています。

図表 3-49 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
総合体育館	7,805	356	157,707	61,514	390	353
日吉体育館	643	359	17,193	11,193	651	64
川沿公園体育館	1,834	359	58,014	29,764	513	171
合計	10,282	—	232,914	102,471	—	—

⑥ 検討の視点

- ・体育館は、広域対応施設として中心地区に1施設と、西地区に2施設を設置しています。
- ・新耐震基準の建物は、川沿公園体育館の1施設です。
- ・旧耐震基準の建物は、2施設とも耐震診断が「B判定」となり、既に築30年を超え老朽化が進んでいます。
- ・今後はバリアフリー設備の整備も併せた計画的な大規模改修等が望まれます。
- ・日吉体育館と川沿公園体育館は、津波浸水予想エリア外に立地していません。
- ・総合体育館は救援物資総合センターに指定されており、他の2施設は救援物資補完施設に指定されています。
- ・総合体育館は、非常電源設備と入浴設備を備えています。

4 主な施設の状況

(3) スポーツ・レクリエーション系施設（大分類）

1) スポーツ施設・スケート施設（中分類）

① スケートセンター等施設の概要

スケートセンター等施設は、本市における市民の心身の健全な発達及び体育の普及振興、特に冬季間の健康増進を図ることから昭和47年冬季札幌オリンピックスケート競技のサブリンクとしてハイランドスポーツセンターの整備をはじめとして、ときわスケートセンター、沼ノ端スケートセンター、白鳥アリーナの4施設を市内に設置しています。



図表 3-50 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 ^{※1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
ときわスケートセンター	苫小牧市ときわ町3丁目8番5号	昭和54年	3,375	—	—	—	○
沼ノ端スケートセンター	苫小牧市北栄町3丁目2番地の3	平成12年	3,181	—	—	—	○
白鳥アリーナ	苫小牧市若草町2丁目4番1号	平成8年	9,898	—	○	—	○
ハイランドスポーツセンター	苫小牧市字高丘41番地	昭和42年	4,307	—	—	—	○

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-51 施設配置図



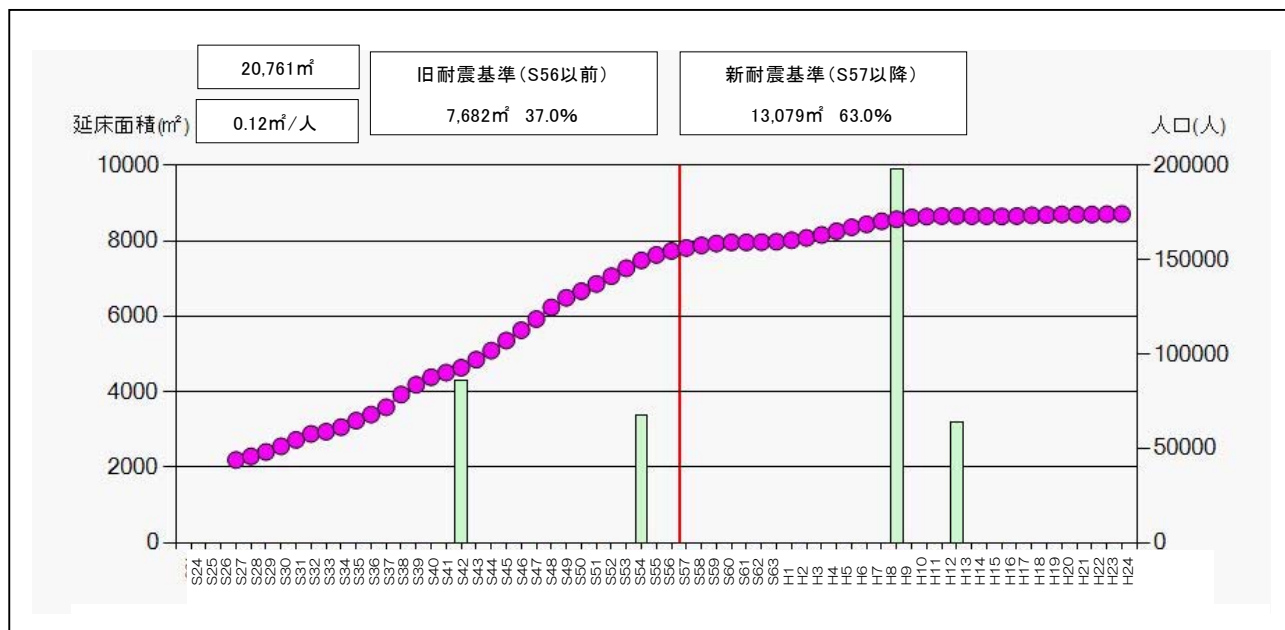
② 建設年度別整備状況

スケートセンター等施設の床面積は、合計2万1千㎡です。

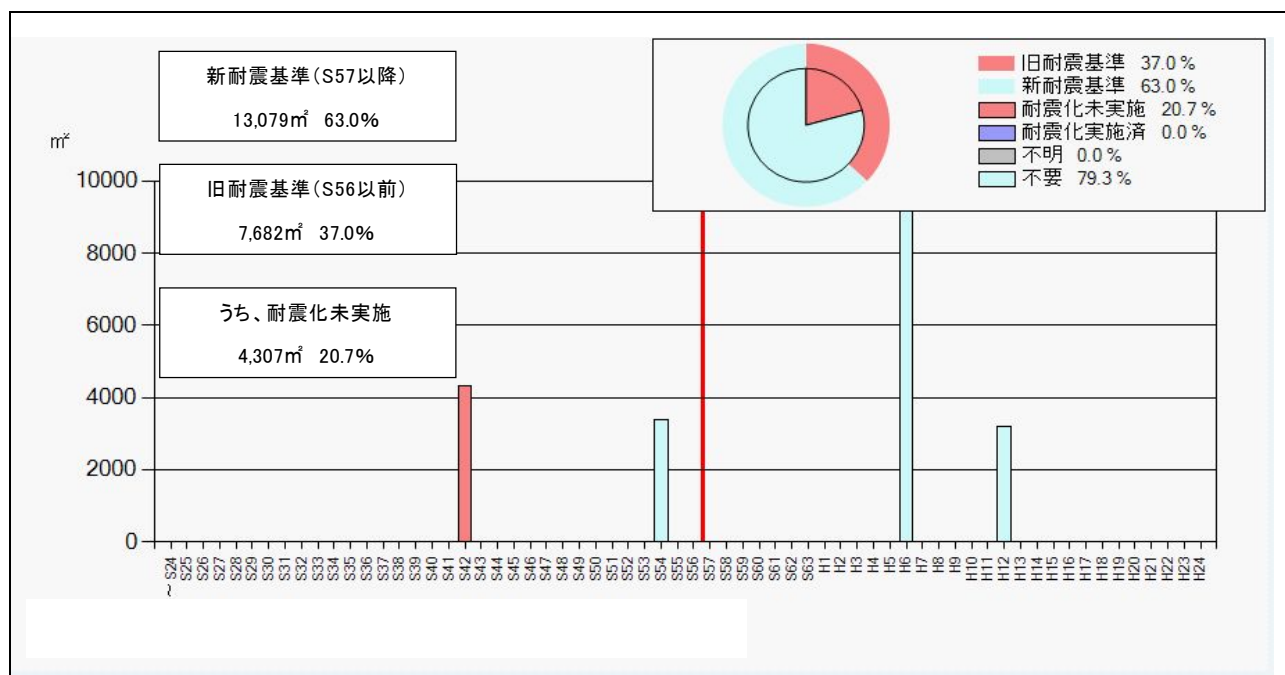
そのうち、旧耐震基準の建物は2施設7千700㎡（37%）、新耐震基準の建物は2施設1万3千100㎡（63%）となっています。

ハイランドスポーツセンターは、耐震診断を行っていません。

図表 3-52 建設年度別整備状況



図表 3-53 耐震化状況



③ 施設総合評価

スケートセンター等施設のうち、津波浸水予想エリア外に立地している施設は、ときわスケートセンターを除く3施設です。また、避難所等に指定されている施設はありません。

沼ノ端スケートセンターは、非常電源設備を備えています。

白鳥アリーナは、非常電源設備と入浴設備を備えており、災害時の対応施設としての活用を検討することが望まれます。

ときわスケートセンターは、施設及び設備の老朽化が著しく施設の使用に支障をきたしていたことから現地隣接地に建替工事を進めています。

沼ノ端スケートセンターは、築12年ですが一部バリアフリー化の不十分な部分についての整備が望まれます。また、白鳥アリーナは、築16年となり老朽化が見受けられることから計画的な対応策の検討が望まれます。

ハイランドスポーツセンターは、築40年以上経過しており、耐震性の問題並びに老朽化も進んでおり、バリアフリー設備の整備を併せた大規模改修等の検討が望まれます。

図表 3-54 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無 指定の避難所等	救護補完施設 物資	津波浸水予想 エリア外	建物階数	耐震(判定) 診断	非常電源設備	入浴設備
ときわスケートセンター	昭和54年	33	3,375	×	×	×	2	A	×	×
沼ノ端スケートセンター	平成12年	12	3,181	×	×	○	1	A	○	×
白鳥アリーナ	平成8年	16	9,898	×	×	○	2	A	○	○
ハイランドスポーツセンター	昭和42年	45	4,307	×	×	○	2	未	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-55 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
ときわスケートセンター	S54	33	×	×	×	○	×	×	3	1	1	2	3	B
沼ノ端スケートセンター	H12	12	-	○	○	○	×	○	3	3	2	2	3	C
白鳥アリーナ	H8	16	○	○	○	○	×	○	3	2	3	2	2	B
ハイランドスポーツセンター	S42	45	×	○	×	×	×	×	1	2	1	1	2	A

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-56 施設総合評価パターン図

	パターンA 耐震化	パターンB 今後 老朽化	パターンB 今後 老朽化	パターンC バリアフリー
評価	・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な計画的な耐震安全性の確保が必要な施設	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設	・バリアフリー化が一部不十分 ⇒今後、バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
優先	優先_1 振分基準 I=1の施設	優先_2 振分基準 パターンA以外でII=2の施設	優先_2 振分基準 パターンA以外でII=1の施設	優先_3 振分基準 パターンA~B以外でIII=2の施設
該当施設	・ハイランドスポーツセンター	・白鳥アリーナ	・ときわスケートセンター	・沼ノ端スケートセンター
コメント	・築40年を超えており、早急な耐震対策とともに、老朽化対策やバリアフリー化を含めた総合的な改善計画の検討が望まれます。	・築16年が経過しており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・平成25年度から建替工事を進めています。	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が望まれます。

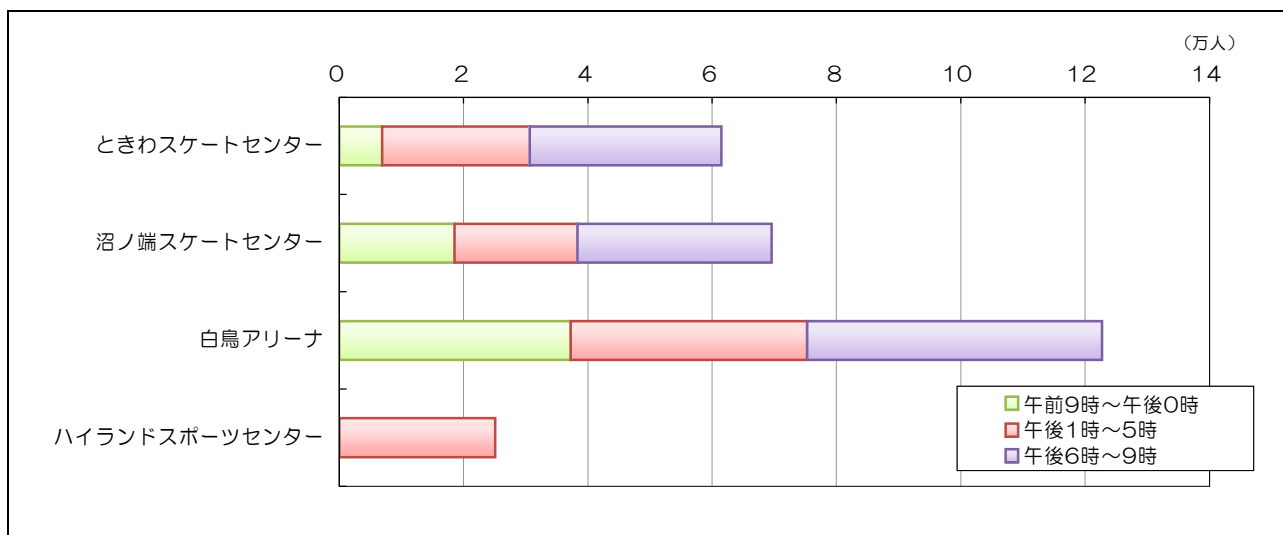
④ 施設の利用状況

スケートセンター等施設の年間利用者数は、4施設全体で27万9千人です。

ときわスケートセンターは6万1千人で、沼ノ端スケートセンターは7万人の年間利用者数ですが、白鳥アリーナは2倍の12万3千人が利用しています。

また、ハイランドスポーツセンターは、屋内リンクが閉鎖され屋外リンク1施設の営業となり利用者は減少し2万5千人と低迷しています。

図表 3-57 施設時間帯別年間利用者数



⑤ 運営状況

スケートセンター等は、指定管理者により運営されており平成24年度維持管理費は4施設で3億5千万円です。

利用者一人当たりの維持管理経費は、ハイランドスポーツセンターが最も高くなっており、最少の沼ノ端スケートリンクの5倍以上となっていることから管理運営の検討が必要と思われます。

図表 3-58 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
ときわスケートセンター	3,375	307	61,496	50,857	827	292
沼ノ端スケートセンター	3,181	292	69,548	56,136	807	322
白鳥アリーナ	9,898	353	122,734	126,195	1,028	723
ハイランドスポーツセンター	4,307	305	25,074	112,229	4,476	643
合計	20,761		278,852	345,417		

⑥ 検討の視点

- ・スケートセンター等施設の4施設は、ときわスケートセンターとハイランドスポーツセンターの2施設が旧耐震基準で、沼ノ端スケートセンターと白鳥アリーナの2施設が新耐震基準です。
- ・新耐震基準施設の沼ノ端スケートセンター及び白鳥アリーナは、築10年以上経過し、建物の老朽化が見受けられることから計画的な対策が望まれます。
- ・ハイランドスポーツセンターは、築40年以上経過し、耐震性の問題と老朽化に対する早急な対応策が望まれます。
- ・ときわスケートセンターは、隣接地に建替工事中です。
- ・ときわスケートセンターは、津波浸水予想エリア外に立地していません。
- ・スケートセンター施設の4施設は、避難所等に指定されていません。
- ・沼ノ端スケートセンターは、非常電源設備を備えていますが入浴設備はありません。
- ・白鳥アリーナは、非常電源設備、入浴設備ともに備えています。
- ・管理運営経費は、4施設で3億5千万円となります。
- ・4施設で年間利用者は、27万9千人で、1人当たりの維持管理費は1千200円となります。

4 主な施設の状況

(3) スポーツ・レクリエーション系施設（大分類）

1) スポーツ施設・屋内競技施設（中分類）

① 屋内競技施設の概要

屋内競技施設は、市民の心身の健全な発達及び体育の普及振興を図るため、沼ノ端スポーツセンター、日新温水プール、屋内ゲートボール場、ハイランドスポーツハウス、サイクリングターミナルの5施設を市内各地域に設置しています。

ハイランドスポーツハウスは、緑ヶ丘運動公園内のスポーツ合宿施設として昭和44年に設置されましたが、近年の利用者減少により平成26年3月末で閉鎖となります。

沼ノ端スポーツセンター、日新温水プールは、通年型温水プールとして東西地区に設置しています。

図表 3-59 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 ^{※1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
沼ノ端スポーツセンター	苫小牧市北栄町3丁目2番地の1	平成22年	3,098	—	○	—	○
日新温水プール	苫小牧市日新町2丁目2番41号	平成2年	3,015	—	○	—	○
屋内ゲートボール場	苫小牧市矢代町2丁目1番12号	平成1年	1,182	—	○	—	○
ハイランドスポーツハウス	苫小牧市字高丘26番地	昭和44年	529	—	○	—	○
サイクリングターミナル	苫小牧市字高丘19番地の1	昭和59年	1,489	—	○	—	○

窓口機能^{※1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-60 施設配置図



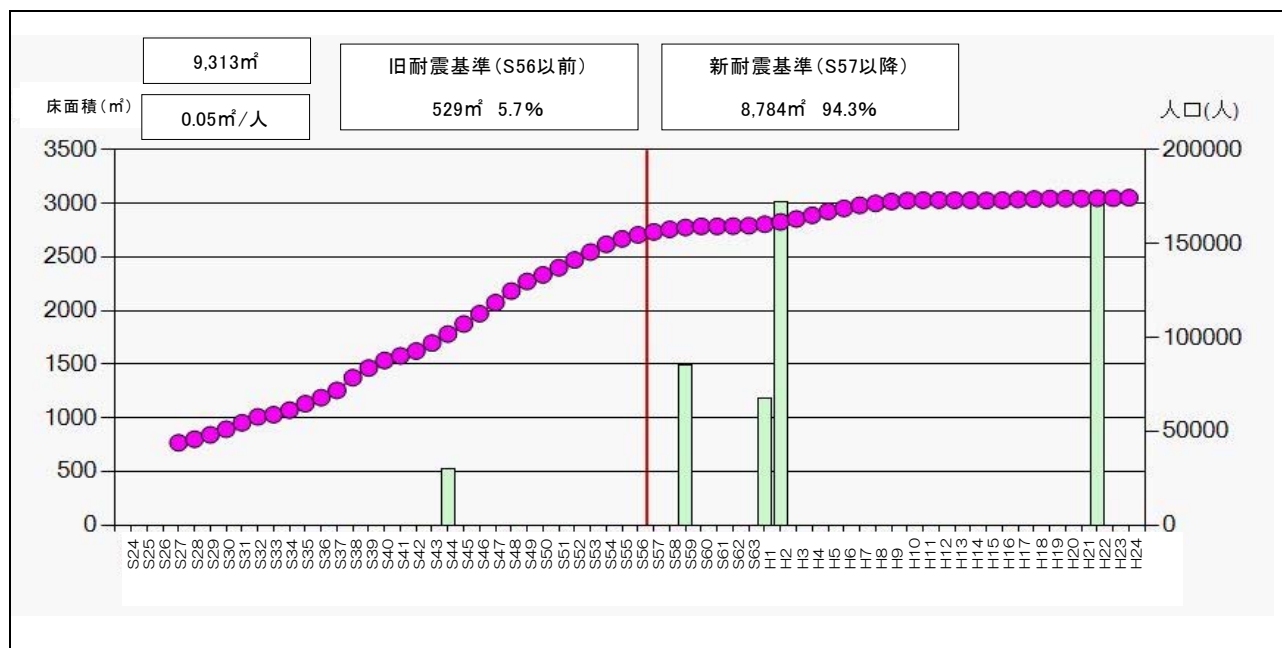
② 建設年度別整備状況

屋内競技施設の床面積合計は9千㎡です。

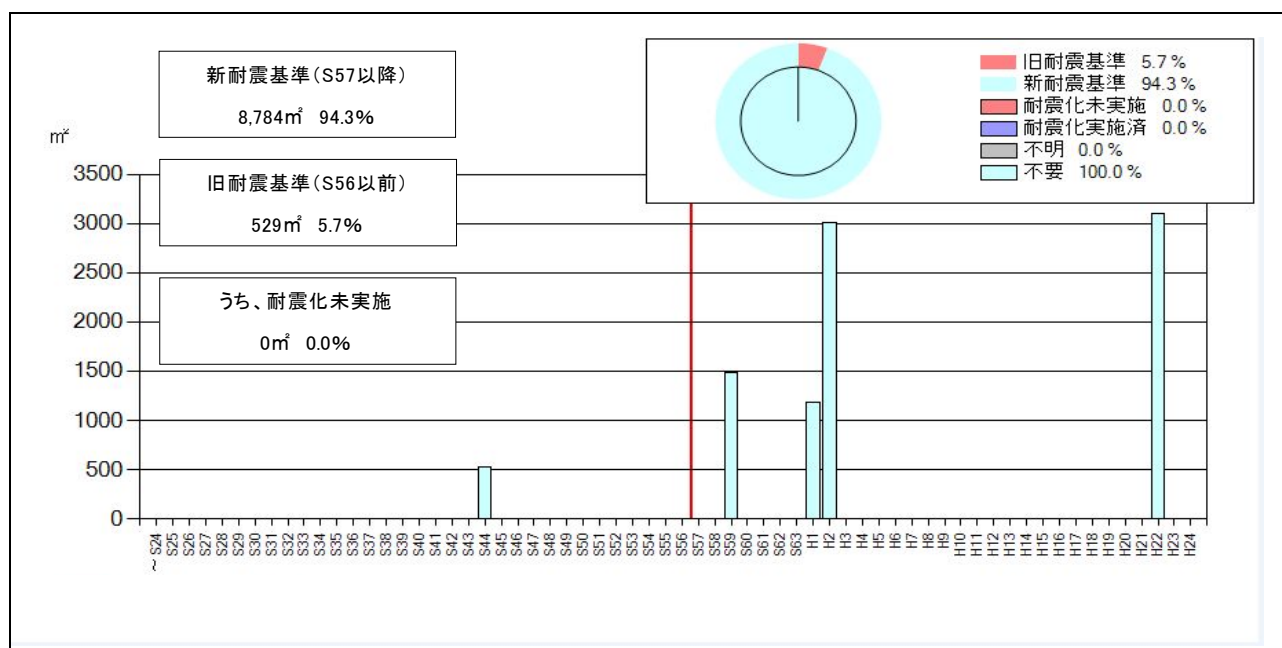
そのうち、旧耐震基準の建物は1施設500㎡(6%)、新耐震基準の建物は4施設8千800㎡(94%)となっています。

新耐震基準の建物はいずれも比較的新しい建物ですが、サイクリングターミナルは築30年近くになることから老朽化が進んでおり、対応策の検討が必要となっています。

図表 3-61 建設年度別整備状況



図表 3-62 耐震化状況



③ 施設総合評価

屋内競技施設のうち、屋内ゲートボール場を除く4施設が津波浸水予想エリア外に立地しています。

また、避難所等に指定されている施設はありませんが、沼ノ端スポーツセンター及び日新温水プール、サイクリングターミナルは入浴設備を備えています。

平成26年3月末で廃止することとなっているハイランドスポーツハウスを除く他の4施設は、新耐震基準の建物ですが沼ノ端スポーツセンター以外の施設は、築20年から30年近く経過しているため、老朽化やバリアフリー設備の計画的な整備が望まれます。

図表 3-63 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等	救済物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
沼ノ端スポーツセンター	平成22年	2	3,098	×	×	○	1	A	×	○
日新温水プール	平成2年	22	3,015	×	×	○	2	A	×	○
屋内ゲートボール場	平成1年	23	1,182	×	×	×	1	A	×	×
ハイランドスポーツハウス	昭和44年	43	529	×	×	○	3	未	×	×
サイクリングターミナル	昭和59年	28	1,489	×	×	○	2	A	×	○

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-64 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベーター	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
沼ノ端スポーツセンター	H22	2	-	○	-	○	○	○	3	3	3	2	3	D
日新温水プール	H2	22	×	○	○	○	○	×	3	2	2	2	3	B
屋内ゲートボール場	H1	23	-	×	○	×	×	×	3	2	1	2	3	C
ハイランドスポーツハウス	S44	43	×	×	×	×	○	×	1	2	1	1	1	A
サイクリングターミナル	S59	28	×	×	×	×	○	×	3	2	1	1	1	C

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-65 施設総合評価パターン図

	パターンA 耐震化	パターンB 今後 老朽化	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
評価	<p>・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な計画的な耐震安全性の確保が必要な施設</p>	<p>・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設</p>	<p>・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設</p>	<p>・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設</p>
	<p>優先_1 振分基準 I = 1の施設</p>	<p>優先_2 振分基準 パターンA以外 でII = 2の施設</p>	<p>優先_3 振分基準 パターンA~B以外 でIII = 1の施設</p>	<p>優先_3 振分基準 パターンA~B以外 でIII = 1の施設</p>
該当施設	・ハイランドスポーツハウス	・日新温水プール	・屋内ゲートボール場	・サイクリングターミナル
コメント	・平成26年3月末に廃止します。	・築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が望めます。	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が望めます。

評価	<p>パターンD 稼動状況</p>
	<p>・稼動率に問題が見られる ⇒稼動率の改善が必要な施設</p>
優先_4 振分基準 パターンA~C以外 でIV = 2の施設	
該当施設	・沼ノ端スポーツセンター
コメント	・事業内容を充実させるなどの改善が望めます。

④ 施設の利用状況

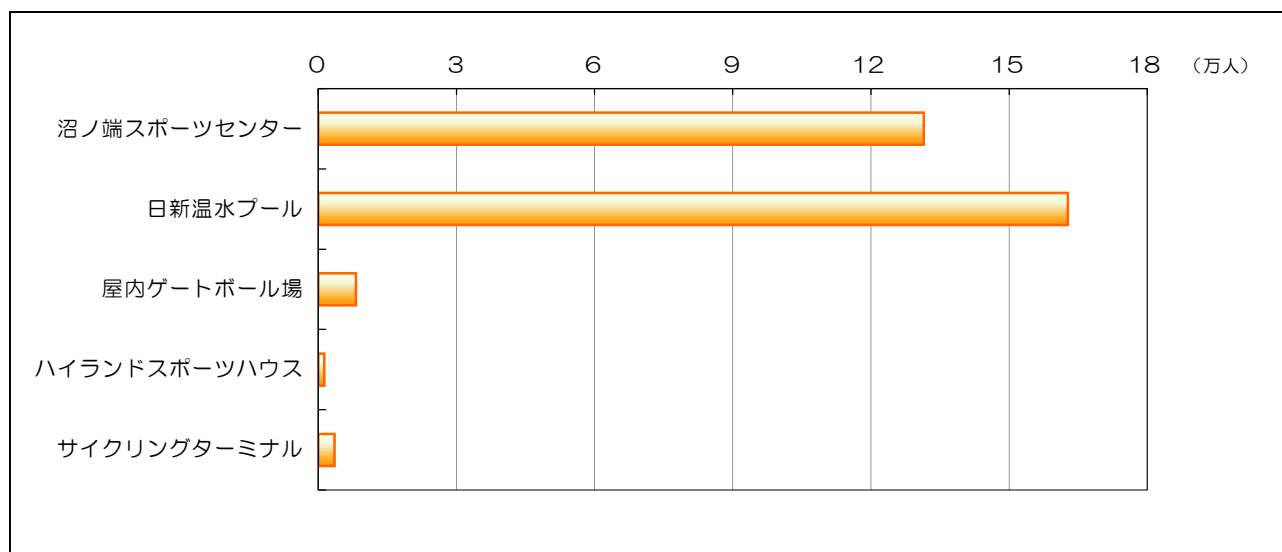
屋内競技施設の年間利用者数は、5施設全体で30万4千人です。

沼ノ端スポーツセンターは、13万人で市民4人に3人が1回利用しています。

日新温水プールは、16万3千人で市民10人に9人が1回利用していることとなります。

なお、屋内ゲートボール場、ハイランドスポーツハウスやサイクリングターミナルは、1日当りの利用者が4人から24人と日新温水プールの1日507人に対して極端に少なくなっています。

図表 3-66 施設年間利用者数



⑤ 運営状況

各施設は指定管理者により運営され、平成24年度維持管理費は5施設で2億6千万円です。

利用者一人当りの維持管理費は、ハイランドスポーツハウスとサイクリングターミナルが最も高くなっており、最少の日新温水プールの38倍となっています。

図表 3-67 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの維持管理費 (円)	市民一人当りの維持管理費 (円)
沼ノ端スポーツセンター	3,098	348	129,996	113,674	874	652
日新温水プール	3,015	321	162,782	81,815	503	469
屋内ゲートボール場	1,182	336	8,214	7,000	852	40
ハイランドスポーツハウス	529	363	1,289	60,749	19,402	348
サイクリングターミナル	1,489	363	1,842			
合計	9,313		304,123	263,238		

⑥ 検討の視点

- ・屋内競技施設のうちハイランドスポーツハウスは、旧耐震基準の施設です。
- ・新耐震基準施設のうち沼ノ端スポーツセンターを除く3施設は、築20年以上です。
- ・旧耐震基準のハイランドスポーツハウスは、平成26年3月末で閉鎖となります。
- ・屋内競技施設の各施設は、バリアフリーの整備が望まれます。
- ・避難所等に指定されている施設はありません。
- ・屋内ゲートボール場を除く4施設は、津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・屋内競技施設の5施設は、非常電源設備が備わっていません。
- ・屋内ゲートボール場及びハイランドスポーツハウスには入浴設備が備わっていません。
- ・屋内競技施設の5施設は、全体で年間利用者30万4千人となります。
- ・屋内ゲートボール場やサイクリングターミナルの利用人数が他施設より少なくなっています。

4 主な施設の状況

(3) スポーツ・レクリエーション系施設（大分類）

1) スポーツ施設・屋外競技施設（中分類）

① 屋外競技施設の概要

屋外競技施設は、市民の心身の健全な発達及び体育の普及振興を図るため、緑ヶ丘公園庭球場、緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場、緑ヶ丘野球場、清水野球場、少年野球場、緑ヶ丘公園陸上競技場の6施設を緑ヶ丘総合運動公園内に設置しています。



図表 3-68 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (m ²)	併設機能			
				窓口 ^{*1} 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
緑ヶ丘公園庭球場	苫小牧市清水町3丁目3番26号	昭和58年	290	—	—	—	○
緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	苫小牧市清水町3丁目3番26号	昭和63年	276	—	—	—	○
緑ヶ丘野球場	苫小牧市清水町3丁目3番26号	昭和61年	—	—	—	—	○
清水野球場	苫小牧市清水町4丁目1番1号	平成16年	—	—	—	—	○
少年野球場	苫小牧市清水町3丁目3番26号	昭和62年	—	—	—	—	○
緑ヶ丘公園陸上競技場	苫小牧市清水町3丁目2番26号	昭和56年	—	—	—	—	○

窓口機能^{*1}：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-69 施設配図

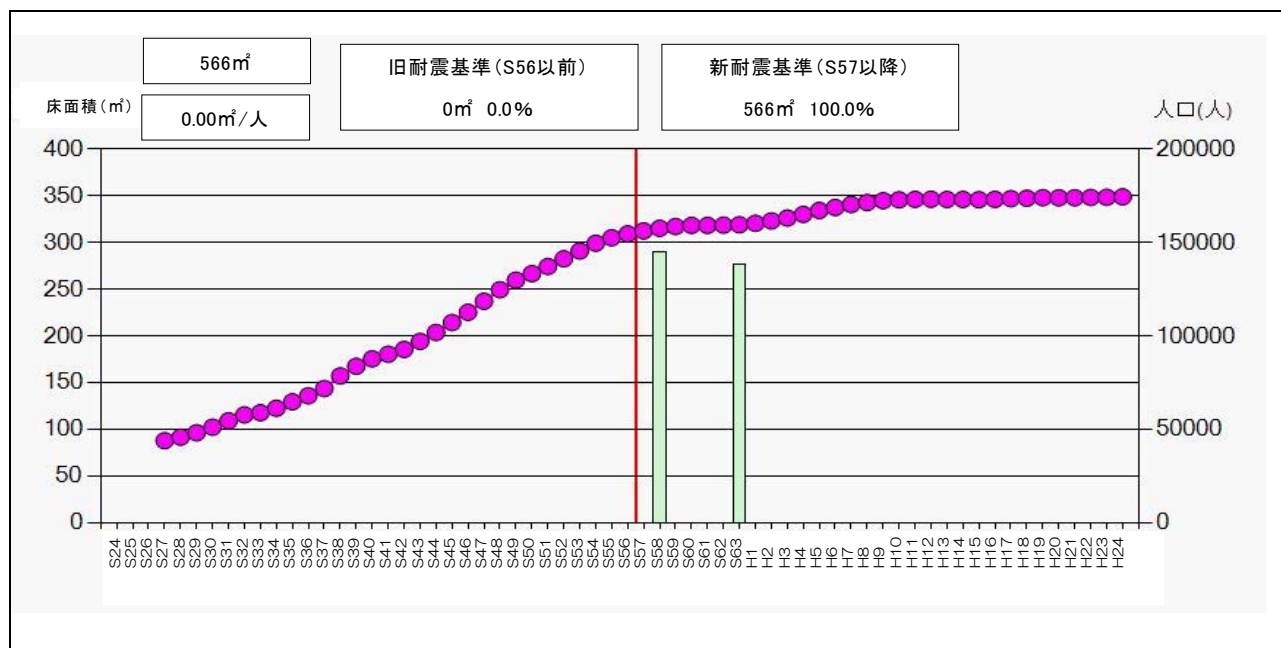


② 建設年度別整備状況

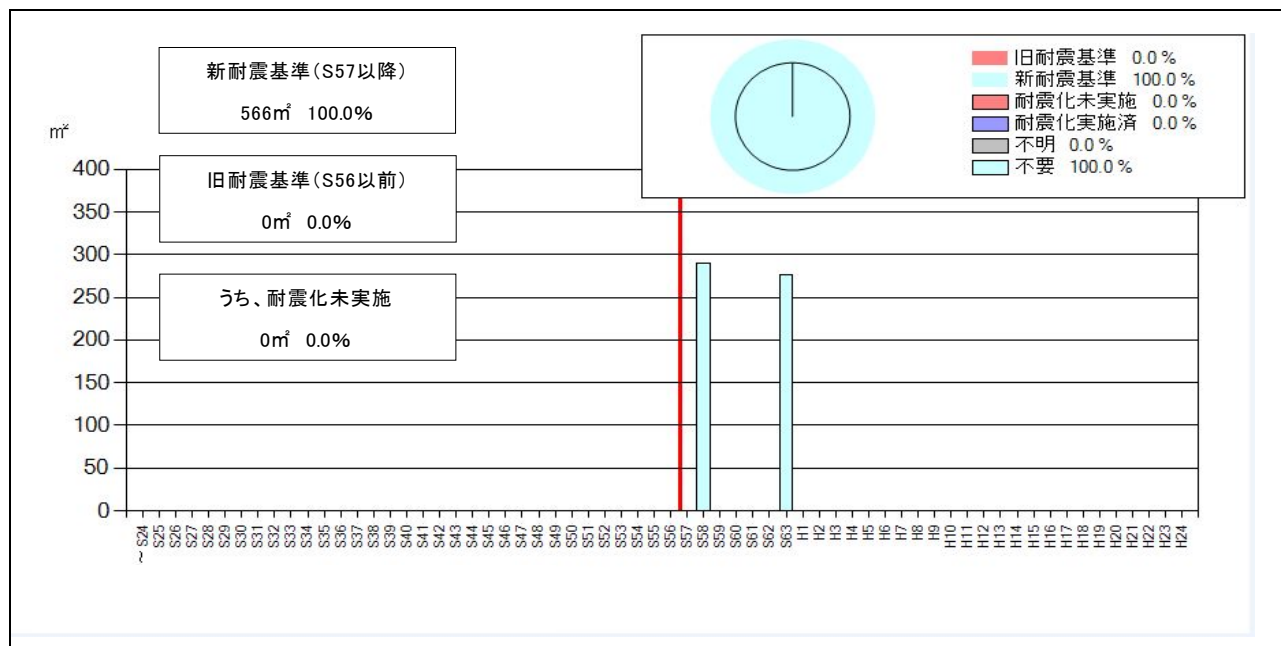
屋外競技施設として6施設を保有し、そのうち旧耐震基準の建物はありません。

なお、緑ヶ丘公園陸上競技場は、昭和56年に設置し利用されてきましたが、平成25年度から2カ年かけて全天候型レーンを備えた第3種公認取得に向けた改修工事を行っています。

図表 3-70 建設年度別整備状況



図表 3-71 耐震化状況



③ 施設総合評価

屋外競技施設は、6施設とも津波浸水予想エリア外に立地しており、避難所等に指定されている施設はありません。

また、屋外競技施設のうち緑ヶ丘公園陸上競技場を除く5施設は、グラウンドやコートなど定期的な保守メンテナンスを実施しているが、老朽化対策やバリアフリーなどの計画的な整備が望まれる施設です。

図表 3-72 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の避難所等	救済補完物資	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
緑ヶ丘公園庭球場	昭和58年	29	290	×	×	○	2	A	×	×
緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	昭和63年	24	276	×	×	○	2	A	×	×
緑ヶ丘野球場	昭和61年	26	0	×	×	○	2	A	×	×
清水野球場	平成16年	8	0	×	×	○	1	A	×	×
少年野球場	昭和62年	25	0	×	×	○	1	A	×	×
緑ヶ丘公園陸上競技場	昭和56年	31	平成25年4月より改修工事中							

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-73 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価						
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価パターン	
緑ヶ丘公園庭球場	S58	29	×	×	×	×	×	×	3	2	1	1	3	C	
緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	S63	24	×	○	×	×	×	×	3	3	1	1	3	C	
緑ヶ丘野球場	S61	26	×	×	×	×	×	×	3	3	1	1	3	C	
清水野球場	H16	8	—	×	×	×	×	×	3	3	1	1	3	C	
少年野球場	S62	25	—	×	×	×	×	×	3	3	1	1	3	C	
緑ヶ丘公園陸上競技場	S56	31	平成25年4月より改修工事中												

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、—＝不要・該当なし、

図表 3-74 施設総合評価パターン図

評価	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
備	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">振分基準 パターンA~B以外 でⅢ=1の施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">振分基準 パターンA~B以外 でⅢ=1の施設</div>
	該当施設	・緑ヶ丘公園庭球場
コメント	・バリアフリー化の不十分な部分について整備が望まれます。	・バリアフリー化の不十分な部分について整備が望まれます。

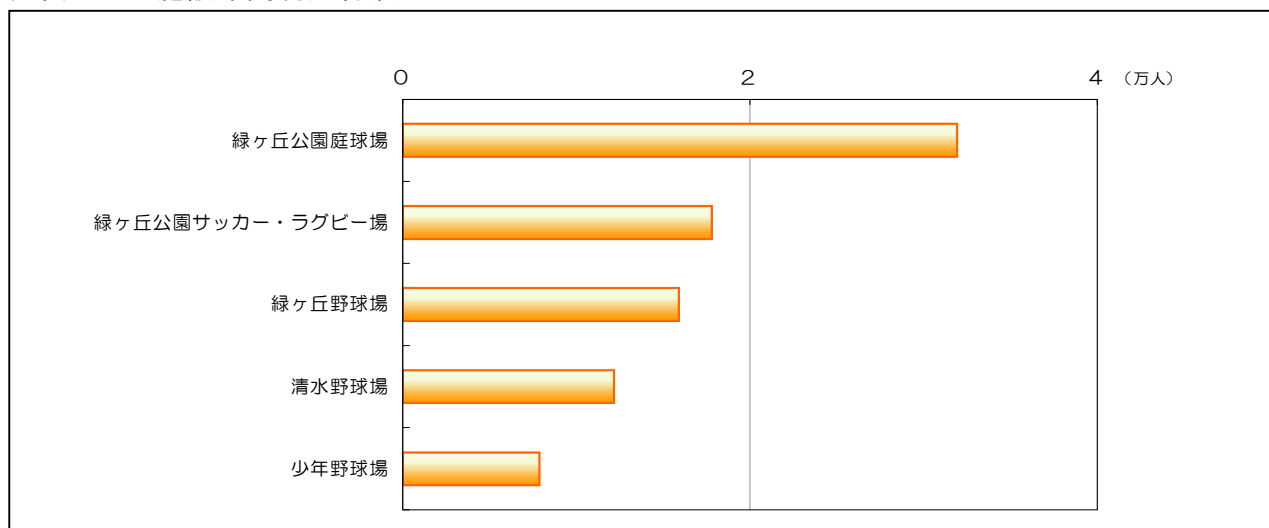
④ 施設の利用状況

屋外競技施設の年間利用者数は、5施設全体で7万7千人です。

緑ヶ丘公園庭球場は、2万3千人で最も多く利用されています。

また、野球場3施設の中で最も利用されている緑ヶ丘野球場は1万6千人で、続いて清水野球場の1万2千人、少年野球場は8千人となっています。

図表 3-75 施設年間利用者数



⑤ 運営状況

屋外競技施設6施設のうち緑ヶ丘公園陸上競技場を除く5施設の平成24年度維持管理費は、5千万円です。

利用者一人当たりの維持管理費は、緑ヶ丘公園庭球場が最も高く、次いで野球場の3施設となっています。

図表 3-76 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
緑ヶ丘公園庭球場	290	217	23,189	21,195	914	122
緑ヶ丘公園サッカー・ラグビー場	276	47	17,806	7,761	436	44
緑ヶ丘野球場	—	178	15,920	19,891	553	114
清水野球場	—	171	12,170			
少年野球場	—	172	7,878			
緑ヶ丘公園陸上競技場	— — — 改修工事中 — — —					
合計	566	—	76,963	48,847	—	—

※清水野球場及び少年野球場の維持管理費については、緑ヶ丘野球場で一括管理しています。

⑥ 検討の視点

- ・市民の心身の健全な発達及び体育の普及を図るため6施設を設置しています。
- ・旧耐震基準の建物はありますが、クラブハウスの老朽化が進んでいます。
- ・陸上競技場は、平成25年度より2ヵ年かけて改修工事を行っています。
(平成25年4月から平成27年3月まで閉鎖期間となり利用できません。)
- ・避難所等に指定されている施設はありません。
- ・屋外競技施設は、全ての施設が津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・屋外競技施設5施設の年間利用者数は7万7千人です。
- ・屋外競技施設5施設の維持管理運営費は5千万円です。

4 主な施設の状況

(3) スポーツ・レクリエーション系施設（大分類）

2) レクリエーション施設・観光施設（中分類）

① レクリエーション施設・観光施設の概要

樽前山7合目ヒュッテは、通年管理人が常駐し自然保護・防災・緊急避難所として設置しています。また、旧北海道開発庁が提唱する「オートリゾートネットワーク構想」により錦大沼公園にオートリゾートセンターハウス、オートキャンプ場、青少年キャンプ場、温浴施設の一体化したレクリエーション施設を設置しています。また、支笏湖畔にライダーや釣り客の簡易宿泊施設として、ログハウス調のモーラップ樽前荘を設置しています。なお、市制50周年を記念し平成10年に緑ヶ丘公園展望台を設置しています。

図表 3-77 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
樽前山7合目ヒュッテ	苫小牧市字錦岡	昭和33年	120	—	○	—	—
錦大沼公園オートリゾートセンターハウス	苫小牧市字樽前421番地の4	平成3年	776	—	○	—	—
錦大沼公園オートキャンプ場	苫小牧市字樽前421番地の4	平成4年	0	—	○	—	—
錦大沼公園青少年キャンプ場	苫小牧市字樽前421番地の4	平成4年	0	—	○	—	—
錦大沼公園温浴施設	苫小牧市字樽前421番地の4	平成11年	2,119	—	○	—	—
モーラップ樽前荘	千歳市支笏湖番外地	平成11年	322	—	○	—	—
緑ヶ丘公園展望台	苫小牧市字高丘41番地	平成10年	766	—	—	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-78 施設配置図



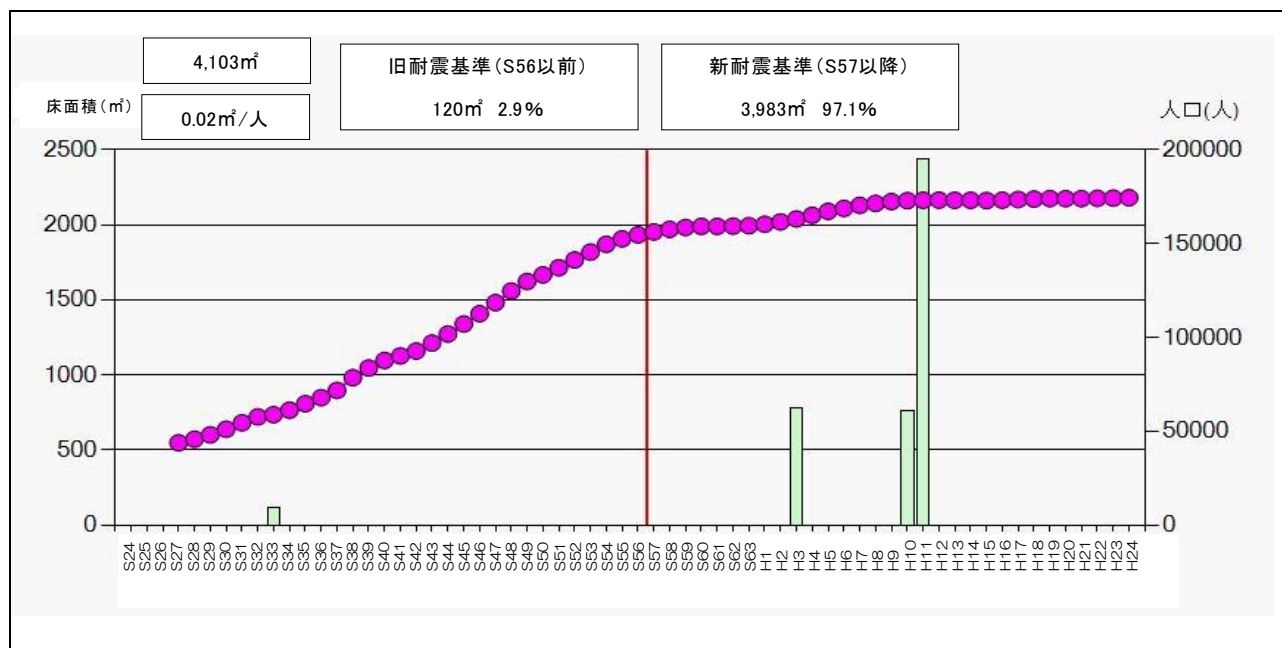
② 建設年度別整備状況

レクリエーション施設・観光施設の床面積は合計 4 千㎡です。

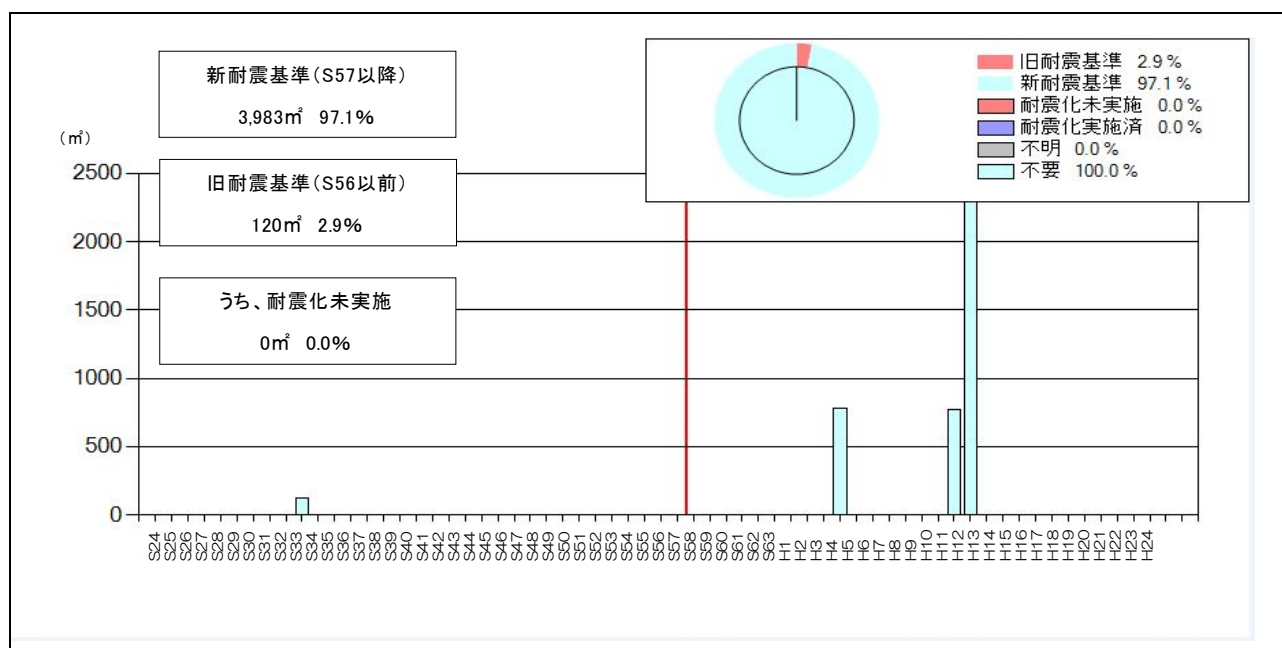
そのうち、旧耐震基準の建物は 1 施設 100 ㎡（3%）、新耐震基準の建物は 4 施設 4 千㎡（97%）となっています。

なお、旧耐震基準の樽前山 7 合目ヒュッテは、耐震診断を行った結果「A 判定」となっています。

図表 3-79 建設年度別整備状況



図表 3-80 耐震化状況



③ 施設総合評価

レクリエーション施設・観光施設は、7施設とも津波浸水予想エリア外に立地しており、避難所等に指定されている施設はありませんが、緑ヶ丘公園展望台を除く6施設には入浴設備が備えられています。

また、樽前山7合目ヒュッテは、管理人が通年常駐し樽前山の活動監視や登山者の安全確保に重要な役割を担っています。

錦大沼公園一帯に設置しているオートリゾートセンターハウス等は、築10年から20年を経過していることから施設全体の総合的な老朽化対策やバリアフリー化を併せた検討の時期にきています。樽前山7合目ヒュッテは築50年以上経過しており、老朽化対策を進めることが必要となります。また、緑ヶ丘公園展望台は、老朽化が見受けられることから計画的な対策が望まれます。

図表 3-81 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m ²)	一時指定の有無	救援物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
樽前山7合目ヒュッテ	昭和33年	54	120	×	×	○	2	A	×	○
錦大沼公園オートリゾートセンターハウス	平成3年	21	776	×	×	○	2	A	×	○
錦大沼公園オートキャンプ場	平成4年	20	0	×	×	○	1	A	×	○
錦大沼公園青少年キャンプ場	平成4年	20	0	×	×	○	1	A	×	○
錦大沼公園温浴施設	平成11年	13	2,119	×	×	○	1	A	×	○
モーラップ樽前荘	平成11年	13	322	×	×	○	2	A	×	○
緑ヶ丘公園展望台	平成10年	14	766	×	×	○	3	A	×	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-82 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
樽前山7合目ヒュッテ	S33	54	×	×	×	×	×	×	3	2	1	-	-	C
錦大沼公園オートリゾートセンターハウス	H3	21	×	○	○	○	×	×	3	3	2	1	1	D
錦大沼公園オートキャンプ場	H4	20	-	○	○	×	×	×	3	3	2	1	2	D
錦大沼公園青少年キャンプ場	H4	20	-	○	×	×	×	×	3	3	1	2	2	C
錦大沼公園温浴施設	H11	13	-	○	○	○	○	×	3	3	2	2	3	C
モーラップ樽前荘	H11	13	×	○	○	×	○	×	3	3	2	1	3	D
緑ヶ丘公園展望台	H10	14	○	○	○	○	○	×	3	2	3	2	3	B

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、-＝不要・該当なし、

図表 3-83 施設総合評価パターン図

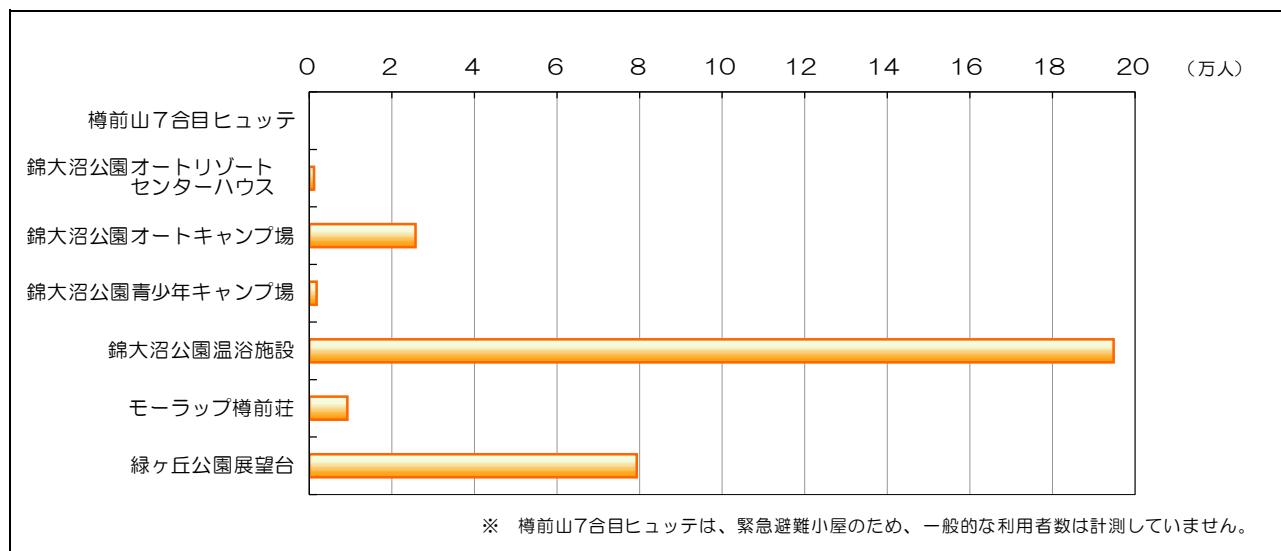
	パターンB 今後 老朽化	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
評	・老朽化が進んでいる ⇒今後、計画的な老朽化対策が必要な施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
価	<p>優先_2</p> <p>振分基準 パターンA以外 でII=2の施設</p>	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でIII=1の施設</p>	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~C以外 でIII=1の施設</p>	<p>優先_3</p> <p>振分基準 パターンA~B以外 でIII=2の施設</p>
該当施設	・緑ヶ丘公園展望台	・樽前山7合目ヒュッテ	・錦大沼公園青少年キャンプ場	・錦大沼公園温浴施設
コメント	・築10年を超えており、計画的な老朽化対策が必要になります。	・築50年を超えており、今後の在り方を含めた大規模改修の検討が必要になっています。 (緊急避難小屋のため、一般的な利用者の把握はしていません。)	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が望めます。	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が望めます。

	パターンD 稼働 運営	パターンD 稼働状況	パターンD 稼働状況
評	・稼働率、運営に問題が見られる ⇒早急な稼働率、運営の改善が必要な施設	・稼働率が低下している ⇒早急な稼働率改善が必要な施設	・稼働率が低下している ⇒早急な稼働率の改善が必要な施設
価	<p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA~C以外 でIV又はVが1の施設</p>	<p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA~C以外 でIV=1の施設</p>	<p>優先_4</p> <p>振分基準 パターンA~C以外 でIV=1の施設</p>
該当施設	・錦大沼公園オートリゾートセンターハウス	・錦大沼公園オートキャンプ場	・モーラップ樽前荘
コメント	・事業内容を充実させるなどの検討が望めます。 ・維持管理費の運営について検討が望めます。	・事業内容を充実させるなどの検討が望めます。	・事業内容を充実させるなどの検討が望めます。

④ 施設の利用状況

レクリエーション施設・観光施設の年間利用者は、7施設全体で31万2千人です。温浴施設の年間利用者数が19万5千人と最も多く、続いて緑ヶ丘公園展望台が8万人となっています。また、樽前山7合目ヒュッテは通常は使用しませんが、緊急時には人命に関わる重要な施設となっています。

図表 3-84 施設年間利用者数



⑤ 運営状況

レクリエーション施設・観光施設の平成24年度維持管理費は、2億6千万円です。

錦大沼公園温浴施設が最も多く1億5千万円で、利用者一人当たり800円となっています。

利用者一人当たりの維持管理費は、錦大沼公園オートリゾートセンターハウスとオートキャンプ場が2,800円で最も高くなっており、最少のモーラップ樽前荘の9倍となっています。

図表 3-85 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの維持管理費 (円)	市民一人当たりの維持管理費 (円)
樽前山7合目ヒュッテ	120	365	—	3,322	—	19
錦大沼公園オートリゾートセンターハウス	776	365	1,147	74,953	2,786	430
錦大沼公園オートキャンプ場	—	365	25,754			
錦大沼公園青少年キャンプ場	—	214	1,769	4,535	2,564	26
錦大沼公園温浴施設	2,119	351	194,782	150,262	771	861
モーラップ樽前荘	322	214	9,195	2,879	313	17
緑ヶ丘公園展望台	766	332	79,306	26,776	338	154
合計	4,103		311,953	262,727		

※オートキャンプ場の維持管理費については、オートリゾートセンターハウスで一括管理しています。

⑥ 検討の視点

- ・レクリエーション施設・観光施設として、樽前山7合目ヒュッテをはじめ7施設が設置されており、いずれも苫小牧市の観光にとって重要な施設です。
- ・全施設は津波浸水予想エリア外に立地していますが、樽前山に近い火山に関連する災害に注意が必要です。
- ・全施設非常電源設備は備わっていませんが、緑ヶ丘公園展望台を除く6施設には入浴設備が備わっています。